真庭市 「二川（ふたかわ）地域」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　378 人

○高齢化率　　61.1％

○集 落 数　　21 集落

（R8.1.1）

取組の経過

真庭市の北部（旧湯原町）、湯原温泉と蒜山高原の中間に位置しており、地域の総面積は約 65 平方キロで、東部に湯原ダム湖があります。

平成 20 年 6 月に推進組織である「二川ふれあい地域づくり委員会」を立ち上げ、4 つの部会を設けて、集落機能再編・強化事業に取り組んでいます。また、 令和 4 年度からは、廃校となった旧二川小学校を活用した、二川みらいづくりセンターを活動拠点として、新たな取り組みを開始しています。

推進組織

二川ふれあい地域づくり委員会

地域の特徴

高齢者の見守り活動や福祉事業、交流事業に積極的に取り組み、まとまりの強い地域です。

代表的な取組

○保健福祉の推進

健康で暮らしやすい地域を目指して、高齢者の見守りを行っています。

○地域の産業振興

二川地域の産業振興を目的に、加工もちの生産や餅をつけない方たちへの餅つき代行を行なっています。加工した餅はふるさと納税の返礼品などに活用しています。

○地域の交流と広報活動

地域内外の交流事業として、夏には「魚のつかみどりin二川」を、秋には地域住民を中心に陶芸や華道などの作品展示や地元の農産物を販売する交流イベント、マルシェや大学生と連携したワークショップ等を開催しています。広報としては「ふたかわ地域づくり新聞」を毎月発行するほか、Facebookも活用し、地域行事や地域で活躍する人を紹介することで、地域の一体感醸成に努めています。

○子どもの居場所づくりと子ども食堂

長期休み中の、子どもの居場所づくりとして「わんぱく学校」を開催しています。

○おためし住宅の運営

田舎暮らしを体験したい方を対象に「おためし住宅」の運営を行っています。

○公共交通の地域運行

真庭市営バスの「まにわくん」を地域住民が運行する事業を受託し、運転手の講習や事務局体制の整備を行い、週 3 日 2 往復で病院やコンビニ、美容院などがある湯原温泉と二川地域を繋ぐ足として運行しています。

美作市「旧梶並小学校区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　441 人

○高齢化率　　68.9%

○集 落 数　　6 集落

(R8.1.1)





取組の経過

美作市の北西部に位置し、地域のほとんどが山林で占められており、吉野川の支流である梶並川・東谷川の流れに沿って、集落・田畑が形成されています。

地域内の 6 集落のうち、すべての集落が高齢化率 50%を超え、過疎化・高齢化により閉塞感が高まっていることから、地域内の連携をより強化することで様々な課題の解決につなげたいと考えています。

自らの地域は、自らの手で守り、育て、築き上げることを目標に、地域住民が主体となり、自主的な活動によるまちづくりを目指して取組を進めるため、梶並地区活性化推進委員会を発足させました。

推進組織

梶並地区活性化推進委員会

地域の特徴

地域全体で休耕荒廃地を利用した特産品栽培（蕎麦、蒟蒻（こんにゃく）等）に取り組むことにより、自主財源を確保し、自立した地域づくりを目指しています。

代表的な取組

○休耕荒廃地の復旧の第一歩！　蕎麦、蒟蒻芋栽培

地域内に多く点在する休耕荒廃地の復旧の第一歩として、蕎麦、蒟蒻芋栽培を実施しています。

蒟蒻芋は、刺身蒟蒻として製品化を行い、市内だけではなく、大阪の直売所で販売を継続しています。また、蕎麦は石臼製粉し「梶並そば粉」としてブランディングを図り、刺身蒟蒻同様、好評で、安定した数量の販売ができるようになっています。





○お試し住宅事業を活用して定住促進

美作市が整備したお試し住宅入居者と積極的な交流を図り、田舎暮らしへのアドバイスなどを通じて定住促進を行っています。現在、11 世帯が定住し、定住率は約 5 割となっています。

○梶並空き家管理サービス（KAKS）

空き家になっている家を地域で管理し、遠くにいても安心して家を守る事が出来るサービスで、現在 6 件の登録があり、今後も事業を拡大していく予定です。

美咲町 「倭文西（しとりにし）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　613 人

○高齢化率　　52.0%

○集 落 数　　49 集落

（R8.1.1）





取組の経過

標高 200～500m の山間丘陵地域にあり、農地は山間・谷間を利用した棚田、急傾斜地の畑が大半です。まきばの館（岡山県総合畜産センター）が観光名所です。

道路の草刈り等これまで集落内で行ってきた様々な活動を単独の集落で続けていくことが困難になってきており、平成 20 年度より、旧村範囲というこれまでの集落単位よりも広域な区域での地域運営組織を整備し、住民へのアンケート調査や課題の解決策の検討を重ね、集落機能再編・強化のための「実施計画書」を策定しました。さらに、令和元年度には、前回のアンケートから 10 年が経過したこともあり、改めて住民全員アンケートを実施し、新しい「地域みらい計画書」の作成を行いました。現在「新・地域みらい計画書」の指針に沿って地域づくり、環境づくり、産業興しに計画的に取り組んでおり、「元気な倭文西」を目指していきます。

推進組織

倭文西まちづくり協議会

地域の特徴

旧村(昭和の合併前）を単位とした広域的な活動組織で、住民全員アンケートを基に地域の課題を掘り起こし、地域みらい計画を作成して、地域の課題解決に向けた取り組みを行っています。

代表的な取組

○どんとこい収穫祭

地域内の結束と地域外に向け本地域をＰＲするとともに、都市住民との交流のため例年開催しています。イベントを通して、地域内外の輪を広げていき、地域活性化を目指していきたいと考えています。



○地域住民全員アンケート

地域住民全員アンケートによる住民ニーズの発掘と地域課題の解決に向けた「地域みらい計画書」を作成し、計画的に地域の課題解決に向けた取り組みを行っています。

【課題解決への取り組み例】

・黄色い旗による見守り活動
・地域の身近な話題を提供する「ふれあい倭文西新聞」
・空き家の利活用ワーク
・地域の味を守っていこう「倭文西レシピ集」の作成



和気町 「丸山・南山方」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　75 人

○高齢化率　　60.0%

○集 落 数　　2 集落

(R8.1.1)





取組の経過

標高約 430mの高台地帯に位置し、自然豊かな中山間地域ですが、高齢化が進み、耕作放棄地が増加し、農地の保全、文化伝統行事がままならない状況であり、集落機能を取り戻すための地域再生のシステムや実践活動が急務の課題となっています。

このため、二つの集落（行政区）が連携し、平成 20 年 5 月に丸山・南山方区集落機能再編強化委員会（通称「やまびこ会」）を結成し、ワークショップでの話し合いを重ねて「集落機能再編強化プラン」を策定しました。「すばらしい自然」という地域の財産を最大限活用した地域づくりを目指しています。

推進組織

丸山・南山方区集落機能再編強化委員会（通称「やまびこ会」）

地域の特徴

県下でも高齢化率の高い高原の山間地ですが、最近豊かな自然環境や景観を求めて都市部からの定住者が増えています。耕作放棄地対策や、みんなで支え合う元気な地域づくりを住民全体で共有し取り組んでいます。

代表的な取組

○やまびこヤッホ～ウォーキング



参加人数：約 100 名

豊かな自然に囲まれた三保高原の地域ファンを増やそうとウォーキングコースを設定し、いつでも来て歩いていただくことにより交流が生まれ繋がりができ、地域に活力ができるきっかけになればとウォーキング大会を開催していました。会員以外の地域住民の方々にも積極的に協力いただき、おもてなしの気持ちで心温まる交流ができました。また、野菜やお米の販売で好評を博し追加注文や問合せも入りました。今後はこれらを地域力に繋げていきたいと考えています。

○初日の出を拝す会

参加人数：約 250 名

地域の伝統を受け継いでの開催で、地域の企業などの協力でなんとか続けていましたが、高齢化のため、負担感もあり、新たな担い手の確保や地域を超えてのネットワークも必要と考えています。

吉備中央町 「旧高富小学校区」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　138 人

○高齢化率　　60.4％

○集 落 数　　3 集落

（R8.1.1）

取組の経過

吉備中央町高富地区は、町の北東部、岡山市（建部町）と美咲町に隣接する高原地帯に位置します。高齢世帯が多く、行政、医療機関、教育施設や店舗などから離れていることから、生活交通手段の確保が大きな課題となっています。そこで、平成 20 年 5 月に「みんなで支え合う地域づくり協議会」を組織し、地域の課題解決に向けた様々な試行的取組を実施するとともに、中山間地域等直接支払制度や農地・水・環境保全向上対策事業を通じて農地の維持管理にも取り組んできました。平成 22 年 3 月には、地域の課題解決に向けた「活性化計画」を策定し、「自分たちの地域は自分たちの手で」「最善の策より次善の策で素早い実践」「GENKAI(限界)集落から GENKI(元気)集落へ」を合言葉に新たなチャレンジを続け、今年で 14 年目を迎えます。

推進組織

旧高富小学校区みんなで支え合う地域づくり協議会

地域の特徴

地域の高齢化が進む中、買い物ツアーや地域内のパトロールを含め、高齢者の見守りを強化しています。

代表的な取組



○買い物ツアーの実施（買い物支援）

コロナ発生から休止となっている町外の大型スーパーへの買い物送迎支援の再開を検討中です。

○一宮高校体験学習受け入れ

毎年、町外の高校生と共に地域清掃などの共同作業を実施、中山間地域の実情を知ってもらうとともに、交流を行っています。

○太陽光発電設備運営

自主財源確保のため、太陽光発電設備を設置し運営を行っています。



○自主防災部の活動

ＡＥＤ講習会や防災訓練への参加をはじめ、地域ぐるみで防災力を高める活動を行っています。

○就実大学等との連携

様々な大学の学生を地域サロン「ももカフェ」に受け入れ、「薬の飲み方講習会」「フレイルチェック」など、学生の発案による共同事業を実施しています。

○防犯カメラ設置

地域住民の安全確保を目的として防犯カメラを３か所設置しました。

真庭市 「富原（とみはら）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　912 人

○高齢化率　　58.0%

○集 落 数　　42 集落

（R8.1.1）





取組の経過

平成 22 年、富原地域（富原小学校区）が「おかやま元気！集落」のモデル地区に認定され、地域の活性化を図ることを目的として、各種交流事業、何でも助け合い事業、特産品販売事業等に取り組んできました。何でも助け合い事業は、「ＮＰＯ法人とみはらむら」を設立し、移送支援・生活支援サービスを実施しています。特産品販売事業は、ふるさと小包を年末に発送、現在は出荷者が中心となり事業を継承しています。

推進組織

とみはら元気集落推進委員会

（各地区から選出された 15 名の推進委員で、事業ごとに担当者を決め活動を実施しています。委員長 1 名、副委員長 1 名、会計 1 名、書記 1 名、監査 2 名）

地域の特徴

真庭市の西部に位置し、新見市と隣接しています。林業・農業（お茶、椎茸、やまのいも銀沫（ぎんしぶき）等）が主な産業です。戦後の最盛期には約 4,000 人、平成 22 年 4 月には 1,464 人いた人口も現在は減り、高齢化・過疎化が進行しています。

代表的な取組

○各種交流事業

例年、各地区選出の委員が企画し、花いっぱい運動、三世代交流グラウンドゴルフ大会、講習会・視察研修会、広報誌の発行を実施して、交流・親睦を深めています。



○何でも助け合い事業

移送支援・生活支援サービスについては、「ＮＰＯ法人とみはらむら」を設立し、事業継承しています。

○特産品販売事業

年末に発送するふるさと小包については、出荷者を中心とするグループに事業継承しています。



真庭市「上田（うえだ）地域」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　192 人

○高齢化率　　61.4.％

○集 落 数　　19 集落

（R8.1.1）

取組の経過

真庭市南部(旧落合町)に位置し、標高 400m の山上にあり、山間に棚田・畑が点在し林野率80％を超える地域で、近年、急速に過疎・高齢化が進行しています。

地域内の「花の山寺・普門寺」には、多くの来場者があり、平成 7 年より「上田むらおこしの会」が主体となり、「花の山寺春まつり」「花の山寺あじさい祭り」「花の山寺秋の桜と紅葉祭り」等々年間を通じ地域をあげてイベントを開催しています。

また、廃校となった小学校を複合施設としてリノベーションした「UEDA VILLAGE」には多くの観光客が訪れており、令和 4 年度からは室内グランピングも開店しています。

推進組織

上田むらおこしの会・一般社団法人地域支援機構サトビト

地域の特徴

廃校舎を地域組織の上田むらおこしの会と一般社団法人地域支援機構サトビト地域が協力し、UEDA VILLAGE（ウエダビレッジ）として様々な取組を行っています。

代表的な取組







○花の山寺春まつり

4 月下旬からのGW中に開催。桜や新緑、山つつじ、藤の花、普門寺の石楠花と次々に咲く花々が訪れる人々を迎えます。

○花の山寺あじさい祭り

6 月に高校生と一緒に準備と周辺の清掃を行い、約 2 千株の紫陽花の見頃は 6 月中旬から下旬までと比較的長く、好評の山菜天ぷら付そば等の食事を提供。売店では、地域の特産品、草だんごなどの販売。7 月には花切りと剪定を実施し、環境整備を実施しています。

○花の山寺桜と紅葉祭り

「桜ともみじ祭り」は、毎年 11 月の第一日曜日に開会式典を行い、太鼓や踊り等で祭りに花を添えて頂き、一日イベントを楽しんでもらえるよう取り組んでいます。

○UEDA VILLAGEの運営

星ノシタノゲストハウス、森ノナカノカフェ、山ノウエノ美容室など様々なお店が村民や観光客をお迎えします。八角堂（旧給食室）では、グランピングが始まりました。

真庭市 「別所（べっしょ）小学校区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　163 人

○高齢化率　　57.6%

○集 落 数　　8 集落

(R8.1.1)





取組の経過

真庭市の南西部(旧落合町)に位置し、標高 270m～500mのなだらかな傾斜地に集落が点在しており、自家消費中心の農林業が主体の地域です。

地域のふれあい集会では、三世代交流事業として伝承の遊びやおもちゃづくりなど、お年寄りから若者・子ども達に至るまで、地域のつながりを持つように心がけたイベントを実施しています。また廃校となった旧別所小学校や空き家を活性化の拠点としての準備を進めています。

推進組織

別所小学校学区をよくする会

地域の特徴

地域内には、県下一の巨木、推定樹齢千年以上といわれる「醍醐桜」があり、春の開花時期から冬の雪景色まで年間 3～4 万人の観光客を迎え、地域の特産品の手作りこんにゃく等の加工・販売を行っています。廃校となっている旧別所小学校や空き家を地域資源の 1 つとして活動に取り組んでいます。

代表的な取組

○醍醐桜

県天然記念物「醍醐桜」は樹齢は 1000 年とも伝えられる。シーズンには約 30,000 人が訪れます。この真庭でも有数の観光地を守り活用する為、別所小学校学区を良くする会が草刈りなどの環境整備を行っています。また冬期夜間の醍醐桜をライトアップすることで桜の新しい魅力を創造しています。

○廃校舎の活用

「醍醐桜」は開花シーズンにおいては、多くの観光客が訪れますが、シーズン以外ではあまり人が訪れることはありません。このため、年間を通して地域に人が訪れるように旧別所小学校（廃校舎）を活用したアートイベントやねこイベントを開催しています。



笠岡市 「北木島町（きたぎしまちょう）」の取組概要

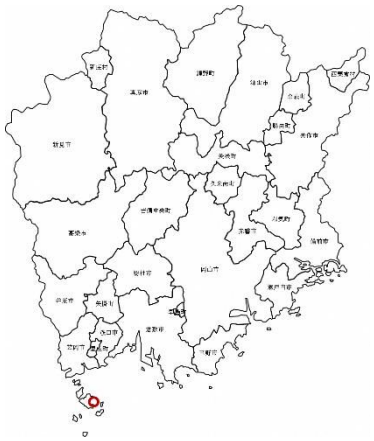
地域の概要

○人　　口　　503 人

○高齢化率　　77.9％

○集 落 数　　4 集落

（R8.1.1）





取組の経過

笠岡諸島の島の中で最も面積が大きく、4 つの集落で構成しています。

採石・石材加工業、漁業、旅館・民宿などが主な産業でしたが、高齢化による後継者不足、安価な外国産石材の流通、観光客の減少等により各産業とも衰退傾向にあります。

従来から、「ＮＰＯ法人かさおか島づくり海社」において、増加する高齢者のための介護保険事業の開設・運営や、買い物支援、コミュニティバスの運営などを進めてきました。

また、住民と行政が協働して、地域の課題を解決し活気あるまちづくりを推進するため、平成 24 年 1 月に「北木島まちづくり協議会」を設立して取組を進めています。

推進組織

北木島まちづくり協議会

地域の特徴

石材や漁業などの主産業が衰退し人口減少や少子高齢化が進んでいますが、住民が力を合わせて地域の問題を解決し、福祉事業や生活の支援に取り組んでいます。

これまでの主な取組



○島内の公園や道路脇に花壇を設置し、四季折々の花を咲かせて、島民や来島者に憩いの場を提供しています。

○島内の各地区で海岸一斉清掃を実施し、漂着物の撤去作業を行うほか、生活道路の草刈りや遊歩道の整備を行うことで、環境保全や島民や来島者の安全確保に取り組んでいます。

○まちづくり協議会の活動のほかにも、イノシシの被害に対し、島民が立ち上げた「イノシシ駆除会」が中心となって島内の連携や情報共有を行い、捕獲用わなの設置や捕獲駆除を行っています。

津山市 「阿波（あば）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　362 人

○高齢化率　　54.7%

○集 落 数　　8 集落

（R8.1.1）





取組の経過

中国山地の中腹にあり、四方を 1,000m級の山に囲まれています。全面積の 94%が山林で占められており、集落には茅葺屋根の民家、道端には水車が残るのどかな風景の広がる地域です。

平成 20 年度から津山市の「住民自治協議会事業」に取り組んでおり、平成 22 年度に、環境に特化したムラづくりとして「エコビレッジ阿波構想」を策定しました。

平成 27 年には津山市との合併から 10 年を機に、住民自らの手で新しい村をつくることを決意し「あば村宣言」を行い、小水力発電事業やＪＡが撤退したガソリンスタンドを住民出資の合同会社を立ち上げて運営するなど暮らしの支え合い活動に取り組んでいます。

また、令和 3 年から持続可能な地域運営のための「稼ぐ」阿波地域の仕組みづくりを目指して「あば村山村活性化協議会」を立ち上げ、農林産物の高付加価値化や商品開発、観光資源や農林産物を活用した観光体験プログラムの開発など、取組を進めています。

推進組織

あば村運営協議会

地域の特徴

環境に配慮したむらづくり、地域資源を活かしたむらづくり

代表的な取組

○地域の暮らしの支え合い

ガソリンスタンドに併設する旧ＪＡ事務所を「あば商店」として運営しています。地域のお年寄りの寄合処となって、高齢者の買い物支援、見守り支援にも繋がっています。



○都市農村交流事業

令和 3 年に始まったグランピング事業と連携し、自転車ツアー、トレッキング、サウナ体験など様々な観光体験プログラムのブラッシュアップを進めています。



○地元農産物の販売

つくだ煮や漬け物などのご飯のお供と米粉クッキーを統一ブランド「あば村おこめ日和」として商品化し、地区観光施設や「あば商店」で販売しています。

津山市 「新加茂（しんかも）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　967 人

○高齢化率　　51.1%

○集 落 数　　8 集落

（R8.1.1）





取組の経過

旧加茂町の北西部に位置し、北は鳥取県、西は鏡野町に接しています。地域を流れる加茂川は、優れた水環境の保持・保全に努めている地域などに対して国土交通省が認定する「水の郷百選」に選ばれており、水の豊かな美しい地域です。

平成 20 年 9 月から津山市の「住民自治協議会事業」に取り組み、町内会長、民生委員、消防団などが集まり地域振興策を検討し、できることから事業を実施してきました。

令和 2 年度には、今後取り組む課題を再検討するために、住民アンケートにより把握した課題解決に向けて、地域づくり座談会を実施しました。令和 5 年度は地域内の空き家を確認し、地域の拠点となるよう、活用方法について話し合いを進めました。今後も、地域振興計画を実現していくため、活動に賛同し、協力してくれる仲間を増やして「だれもが安心して暮らせる地域づくり」に取り組んでいきます。



推進組織

新加茂地区住民自治協議会

地域の特徴

地域に根ざした福祉活動と交流事業

代表的な取組

○福祉分野

高齢者の外出のきっかけづくりとして高齢者バスツアーやひとり暮らし高齢者交流会など地域福祉の増進を目指して活動しています。

令和 2 年度からは、高齢者訪問を行うなど、高齢者を支える体制づくりに取り組んでいます。

○交流分野

3 世代交流を目的としたグランドゴルフ大会の開催など地域のつながりづくりに取り組んでいます。

休耕田を活用したイモ掘り交流会では、100 名近い地域住民が参加し、子どもからお年寄りまで楽しみます。

他にも地域のグランド管理や名所旧跡案内・先人たちの歩みを掘り起こす「ふるさと再発見」の発行など、さまざまな活動に取り組んでいます。



津山市 「上加茂（かみかも）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　467 人

○高齢化率　　52.2%

○集 落 数　　5 集落

(R8.1.1)





取組の経過

旧加茂町の北東部に位置し、東は鳥取県に接しています。田園地帯の中、ＪＲ因美線が走るのどかな風景は多くの人に愛されています。

町内会役員をはじめ、民生委員、愛育委員、こども会等が構成メンバーとなり、地域のにぎわい創出や環境整備など、近隣町内会と連携し合いながら活動しています。

毎年実施している交流事業は、3 世代交流グランドゴルフ大会、地域環境整備の推進として、ＪＲ因美線の沿線に彼岸花の植栽や、木造駅舎や道路などの清掃活動等を実施してきました。大学との交流も進み、物見地区では美作大学が、上加茂地区全体では新見公立大学が地域づくりに加わり、学生目線での課題の掘り起こしが進んでいます。また、平成 30 年度に実施した住民アンケートの結果から見えた地域課題の解決に向けて、地域住民の生活を支援する仕組みづくりや都市との交流体験事業、地域の人々が集うカフェの開催などに取り組んでいます。事業には市内の高校生も参加し、高校生ならではの意見も取り入れて活動に活かし上加茂地域全体への取組に波及するよう活動しています。

推進組織

上加茂地区住民自治協議会

地域の特徴

安心して暮らせる地域づくり

代表的な取組

○「活き活き上加茂　未来へつなぐ我がふるさと」をスローガンに、アンケートをもとに部会制を取り入れ、各課題に取り組んでいます。

○地域内の空き家を見て回り、それぞれの状況に応じた活用の検討や、空き家ワークショップを開催しました。

○地域住民の生活支援を目的とした勉強会の実施や、取組内容を検討。また、コミュニティ機関紙「上加茂地区住民自治協議会だより」を発行しています。

○要介護等地域での見守りが必要な家を地図にした「支え合いマップ」を作成しました。

○令和７年度より農村 RMO の認可を受け、事業に取り組んでいます。

○津山市と連携して「お試し住宅ちわ」の運営管理を進めています。





津山市（ひろどにし）「広戸西地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　537 人

○高齢化率　　47.8%

○集 落 数　　5 集落

（R8.1.1）





取組の経過

旧勝北町の北部に位置し、日本の 3 大局地風の一つとして知られる「広戸風」の名の由来にもなった広戸仙の山麓に広がる地域です。

津山市の「住民自治協議会事業」に取り組み、まず、地域内の 20 歳以上全員を対象にアンケート調査を行った後、町内会役員や町内会青壮年部、消防団、老人会、女性会などを構成メンバーとする協議会を設立しました。

これまで、市町村合併後に中止されていた地元イベント「広戸仙ふれあい登山大会」を復活させました。また、地域への愛着心を育むために広戸西地域のマークを入れた帽子の作成、また地域内の交流を深めるための健康ウォーキングや運動会などを実施しています。

推進組織

広戸西まちづくり協議会

地域の特徴

地域の支え合い交流活動



代表的な取組

○健康ウォーキング

地域の自然を満喫しながら心身両方の健康増進を図るため、健康ウォーキング大会を行っています。

○三世代交流甘酒祭

手作りの甘酒を飲みながら地域のお年寄り・子供たちが交流する三世代交流甘酒祭を開いています。



○小地域ケア会議の開催

高齢化の対応が喫緊の課題となっているため、認知症患者への対応方法、介護保険制度の利用の仕方などを学んでいます。

新見市「大佐大井野（おおさおおいの）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　120 人

○高齢化率　　78.3%

○集 落 数　　6 集落

（R8.1.1）

取組の経過

新見市の北東部、標高 500～700ｍに位置し、鳥取県日野町と岡山県新庄村に隣接する山間部の集落で、主な産業は、農林業（冷涼な気候を生かしたヒメノモチ米の栽培・加工、酪農、スギ・ヒノキの搬出など）となっています。

特にヒメノモチは地域内外から多くの好評を受け、令和 4 年度に生産体制を整備し、更なる販路拡大に努めています。

また、これまで地域では、大井野地域振興福祉協議会が地域づくりを担ってきましたが、地域課題を解決しながら、住民一人ひとりが地域のことを自分ごととして考えて行動し、時代に沿った活動を展開するため、令和 7 年 4 月に小規模多機能自治の地域運営組織「大井野地区社会福祉協議会」に移行しました。「長生きできる支え合いのお～いの」を目標に、支え合いで現状を維持しながら、福祉を主体にした活動に取り組んでいます。

推進組織

大井野地区社会福祉協議会

地域の特徴

特産品「ヒメノモチ」の販売、都市住民との交流事業

代表的な取組

大井野地域には、「御洞（おどう）渓谷・赤松渓谷」や「標高 1,000 メートル級の雄山・雌山（おんぜんめんぜん）」、大佐ダムなどの地域資源が多く存在しており、それらの利活用を図り地域外の方々と交流を推進するため、イベントの開催や、特産品「ヒメノモチ」の加工品販売に取り組んでいます。

正月用もちを中心にもちの加工品の販売を継続的に行っており、順調に販売が伸びていて、「もち」を核に自立した地域を目指し活性化に取り組んでいます。





笠岡市「真鍋島（まなべしま）」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　136 人

○高齢化率　　77.9%

○集 落 数　　2 集落

(R8.1.1)





取組の経過

笠岡諸島の中でも北木島、白石島に次いで3番目に面積が大きく、2つの集落で構成しています。離島というハンディを克服するために2集落の協力体制の強化が求められています。

また、使われていなかった公会堂を「島民の憩いの場」「観光客の休憩所」等として改修し、笠岡本土から真鍋島までの距離を勘案し『五里五里』と名付け、様々なツアーを行ってきました。

さらに、平成24年度に立ち上げた「真鍋島まちづくり連絡協議会」を中心に地域主体によるまちづくりを推進しています。この協議会では、「地元の人がより効果的な助け合いの仕組みを、自分たちで考えて作りあげていこう！」の精神で地域活性化に貢献する取組を行っています。

推進組織

真鍋島まちづくり連絡協議会

地域の特徴

産業としては漁業が中心ですが、近年県外からの観光客が増加し賑わいをみせています。

代表的な取組

○真鍋島まちづくり連絡協議会の活動

山道整備事業・移住促進事業などを実施しました。

各事業を行うことで地区内での交流、また島全体、各種団体の枠を超えた交流を図り、島民がお互いを助け合えるような地域になるよう事業を展開しています。



高梁市 「玉川町（たまがわちょう）」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　492 人

○高齢化率　　38.8%

○集 落 数　　22 集落

（R8.1.1）





取組の経過

本地域は、高梁市の南部に位置し、以前は葉たばこや養蚕、山あいに連なる棚田での水稲等の農業地域でしたが、高齢化により耕作放棄地が拡大しており、自給的農家がほとんどとなっています。

平成 20、21 年度において、岡山県集落機能再編・強化事業に取り組み、対象区域の増原・下切地区にて住民意向調査を基に集落活性化計画書を策定しました。以降、増原・下切地区では集落を単位とした福祉サロン活動の実施、サロン活動の範囲を基礎単位とした福祉マップの作成に取り組んでいます。

ますます進行する高齢化の中にあって、増原・下切地区での取組も困難な状況になっているため、平成 25 年度からは、玉川地域まちづくり推進委員会を中心として、町全体での支えあい・助け合いのまちづくりを進めています。

推進組織

玉川地域まちづくり推進委員会・玉川公民館・玉川地区社会福祉協議会

地域の特徴

高齢化率は高台に位置する増原地区 76.7%、下切地区は 50%という超高齢化地域となっており、町全体での支えあい・助け合いのまちづくりを進めています。

代表的な取組

令和 7 年度も様々な事業が行われました。年度当初に行われる「ピザ焼き体験」では、手作りの生地にトッピングをし、ピザ窯で焼き上げます。かまどでご飯を炊きおにぎりを作りました。8 月に行われる「ふれあい納涼祭」では来場者に番号を書いた「うちわ」が配られ、抽選会が行われますが、景品が豪華なので毎年大人気です。

また、見守り事業の一つとして、人との関わり合いが少なくなっている増原地区や神崎地区で「地域おでかけ Café」を行っています。

顔の見える見守り活動を行い、過疎化の進む地域を少しでも元気づけたいと思っています。



矢掛町（やまのうえ）「山ノ上集落」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　28 人

○高齢化率　　78.6%

○集 落 数　　3 集落

（R8.1.1）





取組の経過

山ノ上集落は、矢掛町の西部の標高 200～250m に位置し、標高が高いという地理的条件と秋の低温と無霧の気象条件を活かして、古くからほし柿づくりが盛んに行われてきました。近年は、人口の減少と高齢化が深刻化してきており、地域農業の衰退、ほし柿づくりの伝統と技術の伝承が課題となっています。

山ノ上自治会では、山ノ上干柿組合等と協力して、干柿まつりの開催や地元中学生・高校生のほし柿づくり体験の受入等の交流活動を実施し、地域の活性化に取り組んでいます。高齢化は進んでいますが、「地域の強いつながり」により伝統あるほし柿づくりをはじめ、巻柿、ほし柿餅等農産物の栽培のみならず、加工品の開発、青空市での販売を手がけ、地域をあげて積極的に 6 次産業化を推進しています。

今後は、山ノ上集落に来ていただき、地域の風景、食材、文化、伝統の素晴らしさを、地域住民とともに五感で体感していただくため、地域の魅力を発信していきたいと考えています。

推進組織

山ノ上自治会、農事組合法人山ノ上干柿組合

地域の特徴

矢掛町ブランド「山ノ上のほし柿」、「ほし柿餅」、「巻柿」を中心に都市住民・地元児童・生徒との交流事業

代表的な取組

（1）「山ノ上干柿まつり」

例年 12 月に山ノ上自治会と農事組合法人山ノ上干柿組合等主催で開催。「山ノ上のほし柿」、「巻柿」をはじめ、地元産の新鮮な野菜、漬物等の加工品の販売を行っています。また、矢掛高校、矢掛小・中・高子ども連合「ＹＫＧ６０」と協働企画した「雲の上カフェ」が 1 日限定でオープンします。



（2）例年 12 月に岡山市で開催される「さと×まちフェスタ」で山ノ上のほし柿等を販売し、当地区のＰＲを行っています。なお、ほし柿や漬物等の加工品は直売所等で年中販売しています。

矢掛町「下高末地域」は、
現在活動休止中のため、
取り組み概要なし(R5.4～)

高梁市 「備中町平川（びっちゅうちょうひらかわ）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　326 人

○高齢化率　　63.5%

○集 落 数　　24 集落

（R8.1.1）

取組の経過

平川地域は、高梁市西部の標高約 450ｍの高原部に位置し、高原特有の気候を生かした夏秋（かしゅう）トマトやピオーネ栽培を中心とした農業が主な産業で、隣接する鉱山も地域の雇用に大きく貢献してきました。

地域の高齢化率は約 64%で就学児童・生徒も減少傾向にあるため、今後も少子高齢化がますます加速することが予測されます。

こうした中、集落機能の維持・強化を図るため、集落座談会や住民アンケートを実施して、平成 20 年度に集落活性化計画を作成し、計画に基づいた「福祉マップ作成事業」「Ｔ型集落点検事業」等に取り組んできました。その他にも「若者地方体験交流事業」「体感田舎暮らし事業」等、住民が地域の課題解決や地域資源の活用を図り、様々な分野でユニークな活動に取り組んでいます。

推進組織

平川地区コミュニティ協議会、平川ふれあいの里づくり推進委員会

地域の特徴

老若男女を問わず多くの住人が地域活動に参加し、住民主体のまちづくりを楽しみながら実践している地域です。また、地域外の人も積極的に受け入れることによって、地域外に「平川ファン」も生まれています。

代表的な取り組み

○納涼大会
○渡り拍子（県無形民俗文化財）の伝承
○ふれあい文化祭
○とんど祭り
○給食サービス



▲渡り拍子の様子

新見市「神郷油野三室（しんごうゆ のみむろ）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　48 人

○高齢化率　　62.5%

○集 落 数　　2 集落

（R8.1.1）

取組の経過

新見市の北西部で広島県との県境に位置する豪雪地帯です。産業は、農業や林業が主なもので、渓谷（三室峡）や自生の石楠花（シャクナゲ）などの地域資源に恵まれており、これらを活用した交流事業なども行われています。

地域内の全戸が構成員となる三室観光組合を組織し、春にしゃくなげまつり、秋に紅葉まつりを開催するなど、地域外住民との交流事業を積極的に実施しています。また、併せて石楠花周辺の清掃美化活動なども実施しています。

推進組織

三室観光組合

地域の特徴

豊かな自然環境を生かした都市住民との交流事業の実施

代表的な取組



三室地区では、春と秋に地域外の住民との交流事業を実施しています。

ＧＷには『三室峡しゃくなげまつり』を開催し、ヤマメの塩焼きや山菜うどん、特産品などの販売、地元神楽社中による備中神楽、地元和太鼓グループのステージイベント、清流でのヤマメ釣りなど多彩な内容で実施しています。

秋には『紅葉まつり』を開催し、ヤマメの塩焼き、山菜うどんの販売や餅まきなどを実施しています。また、岡山市の“うらじゃ”グループによる演舞もあり大変盛り上がります。

春と秋のイベントとして定着しており、紅葉まつりは観光ツアーのルートにも採用いただき多くの方のご来場をいただいています。また、近年は石楠花自生地の支障木の伐採を行い、景観保全に取り組んでいます。これからも、地域外の人に三室地域の魅力を紹介し、交流人口の増大による地域活性化を図るため地域を挙げて頑張ってまいります。

新見市「哲多町大田（てったちょうおおた）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　300 人

○高齢化率　　52.6%

○集 落 数　　12 集落

（R8.1.1）

取組の経過

大田地区は、新見市南西部（旧哲多町）の山間地帯に位置し、農業（水稲・ピオーネ・トマト）・林業が主な産業となっており、おもつぼ湿原やスズラン、荒戸山などの地域資源があります。活動組織として地域内の全戸が構成員となる大田ふるさと振興協議会があります。

大田ふるさと振興協議会は、活動内容ごとに４つの事業部（福祉事業部・営農コミュニティ事業部・演劇事業部・本部）を設けており、各事業部において、給食サービスや夏祭り、ボランティア活動など年間を通じて実施しています。

推進組織

大田地区ふるさと振興協議会

地域の特徴

高齢者生活支援事業の実施

代表的な取組

大田地区では平成 24～25 年度「高齢者生活支援事業」として、試行的に交通弱者支援事業などを実施しました。

現在は、以前から継続して実施している高齢者を支援する給食サービスや友愛訪問、介護予防を目的としたふれあい教室、夏祭り、とんど祭り、広報紙の発行、健康の森学園との交流などを実施しております。演劇事業部もあり、地区内外でのイベントなどで活躍しています。

地域のコミュニティづくりと福祉サービスを中心に活発な活動を行っています。



吉備中央町（きゅうにいやましょうがっこうく）「旧新山小学校区」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　324 人

○高齢化率　　55.1％

○集 落 数　　6 集落

（R8.1.1）

取組の経過

吉備中央町新山地区は、町北西部に位置し、古くは林業が盛んな地区でしたが、昭和 63 年のふるさと創生事業を契機に、岡山市の京橋朝市をはじめとする町内外のイベントに出店するなど、地区外との交流を積極的に行うようになりました。活動を通して地区内の一体感が一層強まり、地区民運動会の開催や県道沿いの花壇整備など、地域内の活性化にも取り組んでいます。近年は、過疎・高齢化の進行を受け、福祉の村づくりに力を入れており、令和元年 7 月には地域商店「新山ほほえみ笑店」をオープン、令和 2 年 4 月には、町の認可地縁団体として法人化し、安全・安心な地域づくりをさらに推進するべく取り組んでいます。

推進組織

新山地区活性化推進協議会

地域の特徴

地域住民全員を協議会会員として、地域内の交流活動、特産品開発やイベント出店に力を入れているほか、近年は地区社協・地域商店を運営し、交通支援・買い物支援・予防介護といった過疎地対策を、住民が主体となって実施しています。

代表的な取組



○「新山ほほえみ笑店」の運営（買い物支援）

食品・日用品など住民が希望する商品を仕入れ販売します。

○無償送迎サービスの実施（新山地区内）

買い物・通院・公共機関への送迎を行っています。

○「山の学校」の実施（高齢者の集い・介護予防）

「はつらつ元気体操」の実施、昼食提供などを行っています。

○新山スポーツフェスティバル

年に一度、スポーツを通して世代を越えた交流を図ります。

○特産のさば寿司づくり

地区内外から注文を受け、毎年秋祭りに合わせて作ります。



○イベント出店

町の「わっしょい和んさか吉備高原フェスタ」「自然薯祭り」に欠かさず出店しています。

○地元の素材を生かした味噌、豆腐作り

加工部会が地区内の原材料を使い、味噌や豆腐を作ります。

○新年互例会

新年を迎え、集落を越えた親睦と交流を深めています。

久米南町（しもゆげかみのちょう）「下弓削上之町」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　325 人

○高齢化率　　48.3%

○集 落 数　　14 集落

（R8.1.1）

取組の経過

町の中心部に位置し、自然とほどよい距離にある集落です。古くは宿場町で街道沿いには商店街を形成していましたが、多くの商店が閉店し、昨今では空き家が多く、その管理等が問題になっています。下弓削上之町では、地域の活性化を目指し、平成 21 年に上之町地区活性化委員会を組織しました。特産品（ゆずコロ）開発、学生との交流イベント、空き家を活用した取組などを中心に地域の課題に取り組んでいます。

推進組織

上之町地区活性化委員会

地域の特徴

「川柳の町久米南町」にちなんで、布に川柳が大きく書かれた「川柳のれん」約 100 枚を軒先に張り出し、「河童街道散歩道」と称して上之町の地域資源を知ってもらう「町歩きイベント」などお客様を迎える活動を行っています。平成 27 年度には 5 枚（五輪カラー）ののれんを新調しました。また、学生との交流により、学生と地域が共同で開発した地域特産品「ゆずコロッケ」も町内外の様々なイベントへ出店しています。平成 28 年度には高校生との連携事業により「ゆずコロのうた」が完成し、イベント販売ブースで曲を流しています。

代表的な取組

○ゆずコロの出店販売（主なもの）

さと×まちフェスタ

町内各種イベント

○その他事業

久米南町住民交流通いの場事業



《寄ってっ亭》

空き家を改修して活動拠点を整備。毎月 5 がつく日に開放し、会員同士の親睦を深めています。

平成 30 年度から「久米南町住民交流通いの場事業」に着手し、地域住民の介護予防に貢献しています。

美作市（うえやまにし）「上山西地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　137 人

○高齢化率　　41.8%

○集 落 数　　8 集落

（R8.1.1）





取組の経過

美作市の最南端に位置し、和気町と接する本地区は、かなりの高低差があり、急傾斜地で、斜面には棚田が広がっています。かつては 8 千枚以上の棚田が耕作されていましたが、住民の高齢化と大型機械の使用が困難なことから不耕作となり、農地の荒廃が進行しています。現在は、地域おこし協力隊などの導入により棚田の再生が進んでおり、近年では NPO 法人英田上山棚田団が実施する『稲株主制度』の拡充とともに関係人口の増加が見られます。

推進組織

NPO 法人英田上山棚田団（H25.4.1～）

地域の特徴

多くの人や組織がこの地で交流し、集落を活性化するための活動を行っています。また、地域住民の参画を促進させ、推進組織の強化を図っています。

代表的な取組

○棚田景観・観光拠点の整備

棚田の景観整備等に関係するイベントを開催し、棚田の情報発信を行うとともに地域内外の住民交流を通じて、引き続き田舎、中山間地への関心及び集落に対する郷土愛の醸成を図っています。



○中山間地域の「移動の自由」実現への取組

過疎高齢化によって商業施設や公共交通が縮小し、移動に困難を抱える中山間地域において、超小型 EV など多様なモビリティを導入し、自由に移動できるシステム作りに取り組んでいます。



○関係人口増加施策の実施

「稲株主制度」の拡充や、収穫祭・米友達などの交流イベントを実施し、関係人口の増加促進を図っています。

美咲町 「打穴（うたの）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　655 人

○高齢化率　　46.7%

○集 落 数　　22 集落

（R8.1.1）





取組の経過

標高 150m～450m の山間丘陵地域にあり、地域の大部分は森林面積で占められています。耕地については中山間総合整備事業等によりほ場整備が進んでいますが、狭隘な山間、谷間を利用した棚田もあり、畑は急傾斜を利用して耕作されている典型的な中山間地域です。

これまでも、町の「協働のまちづくり事業」などを活用し地域づくりに積極的に取り組んできましたが、更に一歩進んだ小規模多機能自治の制度を取り入れた「地域課題解決型の地域づくり」へ転換しました。

住民手作りアンケートにより地域課題を掘り起こし、実際に鳥獣害対策や福祉対策、草刈り問題解決に向けた草刈り講習会等を行い、活動を基に地域づくりの羅針盤である「地域みらい計画書」を作成しました。現在も様々な地域課題の解決を目指した活動を進めています。

推進組織

打穴まちづくり協議会　やってみん会“打穴”

地域の特徴

旧村を単位とした広域的な活動組織で、住民全員アンケートを基に地域課題の掘り起こしを行い、地域みらい計画を作成し、課題解決に向けひとり一役で役割分担を担いながら、地域を超えて協力し合い、精力的に活動しています。

代表的な取組

地域住民による手作りアンケートにより地域の課題を掘り起こし、地域全体でアンケートから見えてきた地域課題の解決方法を検討し、地域づくりの羅針盤である「地域みらい計画書」を作成し、課題解決に向けた各種取り組みを部会ごとに実践しています。



チャレンジ！草刈り王選手権

【地域課題の解決に向けた取り組み例】

・避難所非常用電源切り替え訓練（毎月の会議前に実施）
・長寿お祝い会（思い出の卒業アルバムスライドショー）
・チャレンジ！草刈り王選手権（草刈り刃交換・実技指導）
・おもちで交流会　　・防災食の試食で交流会
・地域の大工職人に学ぶ包丁研ぎ教室（講義後に実技指導）
・スマホ講座（役員が知っておくと便利なラインアプリ講習）
・打穴城跡、神社跡巡り、古城跡確認
・視察の受入れ、他地区との情報交換
・毎月定例会議を実施



大工職人に学ぶ包丁研ぎ教室

美咲町 「江与味（えよみ）地区」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　341 人

○高齢化率　　50.1％

○集 落 数　　12 集落

（R8.1.1）

取組の経過

江与味地区は美咲町の最西端、旭川湖の西岸に位置し、曽母谷川の谷間とその周辺の高原からなる地区です。

地域の伝統料理の継承や高齢者見守りを兼ねた「ふれあい弁当給食サービス」を実施し、納涼祭、三世代交流運動会やクリスマスイベント等により、多世代の交流を重ねています。また、豊かな自然を守り、後世へ繋げていくためゲンジボタルの保護を行うなど、次世代へ自然の大切さを伝承しています。

さらに、地域の若手有志が立ち上がり、住民アンケートから地域課題の掘り起こしに取り組んでおり、江与味地区の３０年後を見据えた地域づくりを進めています。

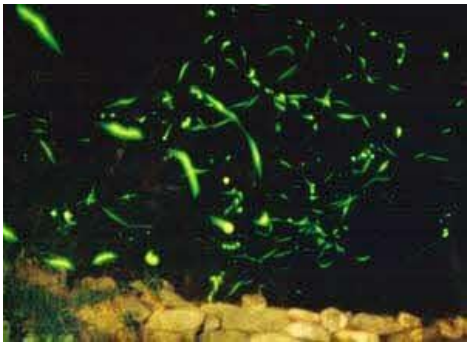
推進組織

江与味自治会

地域の特徴

旧村（昭和の合併前）を単位とした広域的な活動組織で、住民全員アンケートを基に地域課題の掘り起こしを行い、地域みらい計画を作成中です。

代表的な取組



○ふれあい弁当給食サービス

地区有志グループで弁当をつくり、高齢者宅へ月１回お届けしています。平成９年から３０年近く続けている取組みで、地域の伝統料理の継承や高齢者等の見守りを兼ねています。

○地域交流活動

夏の「納涼祭」、秋の「三世代交流運動会」、冬の「クリスマス会食会」など、人が集まるイベントを積極的に開催して多世代による交流を図っています。令和６年から春の「三世代交流グラウンドゴルフ大会」、夏の「キモダメシ」、秋の「文化祭＆マルシェ」が新たに加わりました。



○スマホ教室

スマートフォンなどの利用に困っている高齢者をはじめとして、デジタル機器の取り扱いをみんなで学ぶことを目的に、有志で教室を開催しています。新たにデジタルを活用することで、住民同士が子どもから高齢者まで互いにつながり、デジタルをきっかけに、リアルな人と人との交流が生まれ、だれもが生きいきと暮らしていける江与味の未来を思い描いています。

高梁市（うじちょう）「宇治町」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　451 人

○高齢化率　　63.4%

○集 落 数　　29 集落

（R8.1.1）





取組の経過

高梁市宇治町では、中学校の統合（平成元年）に前後して、主に地域振興を目的とした「都市との交流活動」を中心に住民主体のまちづくりを進めてきましたが、地域の人口減少、少子高齢化には歯止めがかからず、就学児童・生徒も減少傾向にあり、小学校も令和 6 年度で閉校となり、地域活力の急速な低下が懸念される状況です。

こうした状況の中、平成 24 年度において住民意向調査を実施し、話し合いを進めた結果、今後取り組むべき地域の重点課題を「移住者受入体制の整備」「既存事業の見直し（地域運営体制の見直しを含む。）」「高齢者等が安心して生活できる生活基盤の整備」の 3 本柱に定め、事業計画づくりと体制整備を進めています。

推進組織

宇治地域まちづくり推進委員会

地域の特徴

現在まで取り組んできた活動を検証し、地域の課題に即した今後のまちづくりのあるべき姿を模索しています。

代表的な取組

○豊かなむらづくり事業

宇治地域では、農業の後継者不足から、耕作放棄地解消と生きがい対策として「もち麦」の栽培を開始しています。

豊かなむらづくりを進めるため、地元高校生たちに関心を寄せてもらうため、種播きや麦踏み等の活動を通じ交流を図っています。また、『地域外の人とも交流できる場所を作りたい』と女性部から声があり、カフェ「麦」をオープンしました。カフェではもち麦を使用したランチを提供し好評を得ています。このような地道な活動が認められ、農林水産祭むらづくり部門で農林水産大臣賞に選賞され、令和 2 年 11 月 27 日に中四国農政局において受賞、明治神宮へもち麦（キラリモチ）を奉納いたしました。また、6 次化産業にも取り組み、ねじり菓子、もち麦ビールに加え、地元高校生が考案したもち麦入食パンや味噌に加え、新たにもち麦焼酎を手掛けるなど、もち麦を軸とした様々な取組が地域力アップにつながっています。





高梁市 「松原町（まつばらちょう）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　524 人

○高齢化率　　60.1％

○集 落 数　　30 集落

（R8.1.1）

取組の経過

高梁市松原町では、現在まで地域資源を生かした都市との交流を中心に、住民主体による手作りのまちづくりを進めていますが、人口減少や少子高齢化に歯止めがかからず、幼稚園の閉園、小学校の閉校が現実の事となり、地域活力の急速な低下が危惧される状況です。

こうした中、町内で活動する「やまびこ市場」等の各種団体の協力により、定住推進による地域振興を中心とした取り組みを推進するため、住民の意識調査を実施し取組の検証を行っています。また、空き家の利活用により就農や田舎暮らし志向者等の移住受入れを進めるとともに、町外で暮らしている出身者を松原地域の応援団と位置づけ、地域とのつながりを構築し定年後のＵターンの推進により地域の維持・活性化を目指しています。

推進組織

松原地域まちづくり推進委員会

地域の特徴

標高 400～500ｍの山上に位置する景観を生かした交流人口増加の推進のため、松原地域の魅力や移住者の声などを掲載して作成したパンフレットやホームページを活用して、田舎暮らし希望者の方へ積極的に松原地域の魅力を発信しています。

代表的な取組

○移住・定住の推進

空き家調査を実施し所有者に対して取り組みの説明と提供を働きかけています。

○交流人口増加

ふれあい祭り（隔年）、展示会菊花展、初日の出を迎える会など、町民手作りのイベントを開催しています。

○町民の体力づくりと親睦

ニュースポーツ大会、グラウンドゴルフ大会、文化講演会などで町民の外出機会を増やし体力維持と親睦を図っています。

○安全・環境整備

防災訓練やクリーン作戦等を行い、町民の安全確保と景観維持を図っています。



令和８年　初日の出を迎える会



松原町展示会菊花展

笠岡市 「白石島（しらいしじま）」の取組概要

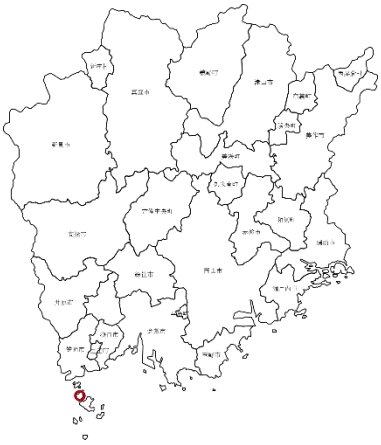
地域の概要

○人　　口　　303 人

○高齢化率　　80.2%

○集 落 数　　10 集落

（R8.1.1）





取組の経過

白石島は瀬戸内海国立公園の代表的な自然景観美をもつ島で、笠岡諸島の島の中では 2 番目に面積が大きく、10 の集落で構成しています。急速な少子高齢化が進んでいる中で、離島というハンディを克服するために集落の協力体制の強化が求められています。

こうした中、地域各種団体の連携を強化する目的で、平成 11 年度に「白石・島づくり委員会」を立ちあげました。この「白石・島づくり委員会」では、明るく住みよい郷土づくりを目指して、安全・安心・助け合いをキーワードに掲げて、毎月一回、定例会を開催し、地域特有の問題解決や地域の特性を活かした地域づくりについて、話し合いを行っています。

平成 22 年 10 月には、地域のまちづくりを支援するため、市職員 3 名が地域担当職員として白石島に配置されました。地域と行政がお互いに情報を共有しながら、身近で強い信頼関係を築き、協働で地域のまちづくりを進めています。

推進組織

白石・島づくり委員会

地域の特徴

急速な少子高齢化の進む中、地区内における各種団体の連携による、明るく住みよい郷土づくりを目指した取組が特徴です。

代表的な取組

○島内新聞作成活動

島内への情報発信のため、白石・島づくり委員会が月に１回「ふるさと新聞」を発行しています。白石島の全戸に月頭に配布しており、ごみの収集日、診療所の診療日、島の各種行事予定、島での出来事などを島民にお知らせしています。



○イノシシ対策事業

近年白石島では、イノシシによる農作物被害等が多発しています。島内住民の安全・安心な生活を守るために白石・島づくり委員会の内部組織としてイノシシ対策部会を設置し、その他地域住民の協力を得て、イノシシの捕獲・駆除に取り組んでいます。



○生活支援サポート事業

高齢化が進み島内の移動が困難な方が増えています。
そういった方のために白石・島づくり委員会で生活支援サポート部会を立ち上げ、令和 5 年 2 月から付添支援ボランティア制度を利用して島内の移動支援をしています。

美作市「東粟倉（ひがしあわくら）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　839 人

○高齢化率　　50.2%

○集 落 数　　7 集落

（R8.1.1）





取組の経過

本地域は美作市の北東部に位置し、兵庫県と接し、岡山県最高峰の後山（1,345m）「氷ノ山・後山・那岐山国定公園」から麓にかけて広がる地域であり、集落は標高 600m から 250m の間の山間部に形成されています。

地域内の人口のうち約 415 人が 65 歳以上の高齢者となっており、過疎化・高齢化により閉塞感が高まっていることから、地域内の連携をより強化することで様々な課題の解決につなげたいと思っています。

自らの地域は、自らの手で守り、育て、築き上げることを目標に、地域住民が主体となり、自主的な活動によるまちづくりを目指して取組を進めるため、愛の村元気プロジェクト実行委員会を設置しました。

推進組織

愛の村元気プロジェクト実行委員会

地域の特徴

多くの観光資源を有する東粟倉地区では、その活用及び維持管理を行い、交流人口の増加につなげ、多くの地域住民が参画できる事業の推進を図っています。

代表的な取組

○地域の特性を活かした交流イベント

同地域の「愛の村パーク」を中心として、地域外からの来客だけでなく地域住民も楽しめる催しを開催しています。代表的なものとしては、交流登山会、もみじまつり等継続して実施しています。令和７年は、田植え、稲刈り、田んぼの石拾い、草集め等の体験を実施しました。



（もみじまつり準備）



（交流登山会）

○観光資源の掘り起こし

合併前の旧東粟倉村で整備した観光施設の有効活用策を研究し、資源の掘り起こしを検討しています。また、アサギマダラの舞う川辺整備等、地域の特性を生かした観光を模索し、交流人口の増加を目指しています。

○県下最高峰「後山」周辺の整備

1,200m 超えの峰を有する後山連山を「美作アルプス」と称し、登山道、遊歩道の整備を行い、もみじ狩り・交流登山会等を通じ、東粟倉の魅力を発信しています。また、オリジナルの「後山の棚田米」の米袋を作成し、ブランド化を目指す取り組みを始めました。



（オリジナル米袋）

美作市「粟井（あわい）地区」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　611 人

○高齢化率　　51.9%

○集 落 数　　32 集落

（R8.1.1）

取組の経過

美作市の北部に位置し、地域のほとんどが山林で占められており、吉野川の支流である小房川の流れに沿って、集落・田畑が形成されています。

地域内の 32 集落のうち 20 集落が高齢化率 50%を超え、過疎化・高齢化により閉塞感が高まっていることから、地域内の連携をより強化することで様々な課題の解決につなげたいと考えています。

自らの地域は、自らの手で守り、育て、築き上げることを目標に、地域住民が主体となり、自主的な活動によるまちづくりを目指して取組を進めるため、粟井地区村創りの会を設置しました。

推進組織

粟井地区村創りの会

地域の特徴

地域、行政、地域おこし協力隊が協働して、地域内にある観光体験施設を活用した田舎体験プランを作成し、都市部の方に提供することにより、交流人口の増加を図っていきます。

代表的な取組





○特産品開発事業

エゴマを栽培しています。エゴマ油へ加工し、販売しており、ふるさと納税の返礼品としても出荷しています。

これまでに引き続き、ハバネロの栽培、加工に取り組んでいます。

エゴマ油の販路拡大、ハバネロの商品化を目指すとともに、都市部の方の体験メニューや、食事に活用できればと考えています。

○荒廃地の活用

もち米の栽培をしています。このもち米は、お餅・おかきに加工し、販売しています。あわせて、もち大豆の栽培も行っており、味噌へ加工して販売しています。

○地域活動

6 月に田植え祭り、11 月に収穫祭（隔年）、1 月にとんどを行っています。田植え祭りととんどは、廃校になった旧粟井小学校周辺で行っており、これら以外にも地域活動を通して地域住民で密な関わりを続けています。

美作市「巨勢（こせ）地区」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　708 人

○高齢化率　　50.7%

○集 落 数　　10 集落

（R8.1.1）

取組の経過

美作市の南部に位置し、吉野川沿いの平地と支流の海田川沿いの山間部に分けられ、川の流れに沿い、集落、田畑が形成されています。

巨勢地区は平成 18 年 3 月に小学校の統廃合により廃校となった後、若者の流出が加速し、高齢化が進行しており、そのような現状を改善するため、自分たちの地域は自分たちの手で「GENKAI」から「GENKI」へ、を合言葉に巨勢地区活性化協議会を設置しました。

推進組織

巨勢地区自治振興協議会

地域の特徴

地域拠点の整備及び推進組織の強化を図り、自己財源の確保につながる事業を多く企画しており、持続可能な地域づくり、組織運営に努めています。

代表的な取組

○小学校の跡地利用



教室の一室を整備し、地元食材や特産品の提供ができる小学校跡地レストランを、地元住民が運営スタッフとなってカフェを営業していました。しかし、コロナの影響で、現在、営業は休業の状況ですが、弁当の出張販売は続けています。地域住民の交流の場としての活用がさかんになってきています。令和７年度には、巨勢地域の集会所として設置され地域住民が一堂に会するイベントを開催したり、元気！集落の取組の周知、地域づくりの意識付けもあわせて行っています。

○小さな拠点づくり

旧巨勢小学校を拠点に地元住民の集いの場としての機能を高めていき、集落の自立活性化を引き続き目指していきます。お涼み会、ミニデイサービス、各会議等も行っていたが、近年はコロナの影響でイベントの開催が一時途絶えたことが大きく影響し、活動の盛り上がりが弱くなっています。

美咲町 「大垪和（おおはが）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　379 人

○高齢化率　　58.3%

○集 落 数　　28 集落

（R8.1.1）





取組の経過

大垪和地区は、吉備高原の北縁にあり、集落の多くは標高 400m 前後のところに立地し、すり鉢状に広がる大垪和西棚田に代表されるように地区内には棚田が発達しており、典型的な中山間地域です。

平成元年発足の「大垪和村おこし推進協議会」から平成 21 年より「大垪和協働のまちづくり協議会」また、令和６年度に組織を地域の課題解決を盛り込んだ「大垪和多機能自治協議会」を発足させ活動しています。文化祭、収穫祭、大垪和のミライフォーラム、大学生との交流事業、棚田の再生や景観保全などを行っています。また、担い手が高齢化する中、田舎暮らしを希望する移住者とともに伝統芸能（獅子舞）の継承など地域の課題解決に向けて活動するとともに、地域資源を生かした活性化を考えています。

推進組織

大垪和多機能自治協議会

地域の特徴

旧村(昭和の合併前）を単位とした広域的な活動組織で、住民全員アンケートを基に地域課題の掘り起こしを行い、地域みらい計画を作成し小規模多機能自治へ取り組んでいる。

移住を希望する方が増えている。

代表的な取り組み









○大垪和ふれあい文化祭、収穫祭

秋に地域の演芸発表会と収穫祭では餅つきや正月飾り作りを実施。

移住者の増加に伴い地域へ早く溶け込む活動を実施。

○生涯学習・防災活動による交流

防災講演会、老人会のグランドゴルフ大会、女性部の正月の生け花教室など開催し交流を深めている。

○二上山古道トレッキングツアー

車社会により使われなくなった古道を、トレッキングコースとして整備し、美しい風景や歴史的な文化財を後世に継承するとともに、地域の魅力を発信しています。

真庭市「鹿田（かった）地域」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　532 人

○高齢化率　　42.4%

○集 落 数　　15 集落

(R8.1.1)

取組の経過

真庭市の南部、旧落合町の中でも南西部に位置し、平坦地で国道 313 号線及び備中川と隣接しており、周辺には田園地帯が広がっています。

住民会では、昭和 39 年から鹿田公民館を拠点として活動を行ってきており、平成 24 年 4 月から新たに住民会組織（各部）を構成し運営しています。

地域住民みんなで協力し『住みよい鹿田』となるよう地域づくりに取り組んでいます。

推進組織

鹿田住民会

地域の特徴

この地域では夏には、昔から受け継がれている『鹿田踊り』（市無形民俗文化財）を納涼盆踊り大会において住民みんなで取り組んでいます。

代表的な取組

○文化継承事業（石黒代官を活用した地域づくり）



石黒代官を活用したイベントを行っていますが、実際に詳細な歴史を知る者は一部しかいません。そこで、石黒代官の歴史を詳細に調べ、講演会等を開催して、歴史を再確認しています。また、地域の名所旧跡 13 カ所を案内する表示板を付近の国道沿いなどに設置したり、56 の文化財や伝統行事をまとめた「鹿田の文化財マップ」を作製し配布するなど、鹿田地域のさらなる活性化を目指しています。名代官石黒小右衛門没後 250 年祭記念事業として、実行委員会が作成した紙芝居を YOUTUBE で紹介しています。

○地域住民の交流と体力向上事業

元旦には地域の交流の拠点でもある鹿田公民館を出発点として、地域内を巡る「新春マラソン大会」を開催しています。

住民総出で行われ、普段は気づかない地域の良さや地域資源を再発見できるよい機会として毎年開催しています。

○まちかど展覧会事業

鹿田公民館を美術館として、地域住民が作成したものの発表の場として展覧会を開催しています。

○高校生と食育地域交流イベントを開催

地域住民と真庭高校生が農地にサツマイモと落花生を植えて食べる食育イベントを開催して交流を深めています。

真庭市「日野上（ひのうえ）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　89 人

○高齢化率　　69.6%

○集 落 数　　11 集落

（R8.1.1）





取組の経過

日野上地域は真庭市南部、旧落合町の中でも南西部に位置する山地で、典型的な過疎・高齢化地域となっており、山間に集落や棚田、畑が点在しています。

過疎化・高齢化の進行に伴い、催しへの参加状況も減少傾向にあり、地域の実情にあった活動を検討しているところです。

推進組織

日野上地域自主組織

地域の特徴

現在休校となっている旧日野上分校を拠点に地域住民が協力して、納涼祭・運動会・三世代交流会などの催しを行っています。

代表的な取組

○地域交流事業

地区納涼祭では、都会に転出された方に「故郷に帰っておいで」と絵葉書を書いて、帰省を促しました。たくさんの方が故郷に帰って納涼祭に参加し、賑やかなものとなりました。大運動会や三世代交流会では、小さな子供からお年寄りまで世代を超えた交流ができました。

○環境整備事業

市道の草刈り、缶拾いなどの環境整備を全戸参加で実施しています。また、地域住民の集いの場になっている八幡神社横のグランドを、住民の協力のもと、整備しています。

○広域農道「木山街道」活用事業

広域農道「木山街道」では、一角から雲海と日の出が楽しめます。この雲海と初日の出を目当てに写真愛好家が訪れるほどです。



真庭市「中津井（なかつい）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　908 人

○高齢化率　　50.3%

○集 落 数　　15 集落
(R8.1.1)





取組の経過

真庭市南部、旧北房町の中でも南西部に位置し、高梁市に隣接している地域です。古くは伊勢亀山藩飛地領の陣屋町として栄え、近年も地域の交流拠点として賑わっていましたが、昭和 30 年代からの人口流出により、急激な少子高齢化が進行、商工業とともに農業も衰退、生活用品の購入や公共交通機関の確保も難しく不便をきたしています。地域では、地域自主組織が中心となり、地域の見守り活動とともに交流イベントの開催や歴史遺産の活用による地域の活性化に努めています。

推進組織

中津井せんだんの会

地域の特徴

古くから栄えたところで、国指定史跡の「大谷定古墳群」などの多くの古墳や中世の「備中兵乱」の舞台となった山城「佐井田城址」、江戸時代末期まで続いた「伊勢亀山藩陣屋跡」等があり、せんだんの会に「遺産保存部」を設置して、歴史遺産の保存整備と観光振興に取り組んでいます。また、「文化部(やまびこ会)」は、「カラクリ祭り」に取り組んでいます。また、このほか「福祉部(地区社協)」、「自主防災部」、「体育部」、「女性部」も地域福祉の増進に取り組んでいます。

代表的な取組

○備中中津井いやしの里カラクリ祭り

10 月中旬の土日の 2 日間、陣屋通りを流れる水路を利用した昔話等を題材にした水車カラクリ約 30 基やミニ水車等を展示、輿入れ道中行列や演奏、地域特産品の販売等をしています。

○佐井田城址の整備保存事業

天文から天正時代にかけて山陰の尼子氏と安芸の毛利氏、備前の宇喜多氏による備中兵乱の舞台となった「佐井田城址」の、登城路、駐車場の清掃・整備、「佐井田城新春ウオーキング」などの探訪会、桜の植樹等を進めています。

○その他

自主防災部は、「防災訓練」の開催や防災資機材の整備や地域における自主防災活動、福祉部による「ふれあいグランドゴルフ大会や高齢者、一人暮らし世帯等への弁当、慰問品等の配布や見回り、乳児家庭への祝い金や見守り活動、女性部によるコスモス街道整備やイベントの共催などをしています。














真庭市（みまさか）「水田（みずた）地域」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　1,102 人

○高齢化率　　45.8%

○集 落 数　　33 集落

（R8.1.1）

取組の経過

地域自主組織である「水田むらづくりの会」が平成 17 年に結成され、地域住民の交流、体力づくりや伝統文化の継承そして環境整備事業など年間を通して、ふれあいや交流の機会を持ち地域活性化に努めています。旧水田小学校体育館を災害時避難所として維持していくため、ふるさと納税（地域指定）を活用した取り組みを行っています。

推進組織

水田むらづくりの会

地域の特徴

水田地域には目立った観光地やイベントもなく華やかさはないですが、昔から美味しい米どころとして栄えた農村地域です。

代表的な取組



○地域交流会の開催

地域住民の交流を目的に、バンド演奏、手品、手芸品制作、恐竜レース、ビンゴゲームなどを催し、地域内外の方々に楽しんでいただきました。

○コスモス街道の整備

備中川の堤防沿いにコスモスを毎年植え、また国道沿いの花壇に夏冬 2 回花を植えて環境美化に寄与しています。



○防災研修

吉備国際大学と真庭市の協力により、防災合宿を実施。体育館は避難所として想定されており、段ボールベッド組立、救急法講習、炊き出し、備蓄品の確認と、体育館での宿泊を体験しました。

○広報誌の発行

年３回、地域内全戸に活動の様子を知らせる広報誌を発行しています。

真庭市「土居（どい）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　95 人

○高齢化率　　51.5%

○集 落 数　　5 集落

(R8.1.1)





取組の経過

土居地域は、真庭市の中央部(旧久世町)に位置する平坦地で、市役所本庁舎がある中心市街地や米子自動車道久世ＩＣからも近く、周辺には区画整備された田地が広がっています。

従来から農業が盛んな地域でしたが、近年急速に過疎・高齢化が進み、農業の後継者が不足する状況となり、耕作放棄地が増加してきています。

地域では、平成 19 年 10 月に結成された地域自主組織を中心に、各種団体と連携して三世代交流事業、納涼祭など年間を通して地域をあげてのイベントを実施してきましたが、さらなる活性化を図るため、平成 25 年 1 月に「おかやま元気！集落」に登録し、集落機能の維持・強化に取り組んでいます。

推進組織

土居自治会

地域の特徴

地域の伝統行事を継承するとともに、平成 25 年 2 月に「土居・中島地区人・農地プラン」を策定し、耕作放棄地の解消に向けた事業を展開しています。

代表的な取組

○特産品開発

地元で生産されるナスを使った漬物の研究を始めました。観音様祭の観音様は子宝の神として古来より地域で祭られており、これにちなんで子宝に恵まれる「土居の観音ナス」としてブランド化に取り組んでいます。



○地域のサロン開催

地域のサロンを開催し、高齢者や住民が気軽に集まることで、見守りや閉じこもりの防止、社会参加のきっかけづくりを目的に、体操やレクリエーションなど楽しめる内容を皆で話し合って取り組んでいます。地域おこし協力隊の隊員も一緒になって集落機能の維持、強化を目指しています。



笠岡市「六島（むしま）」の取組概要

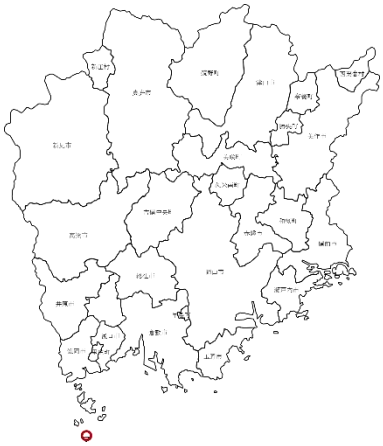
地域の概要

○人　　口　　40 人

○高齢化率　　65.0％

○集 落 数　　2 集落

（R8.1.1）





取組の経過

平成 7 年ごろから島のシンボルである「水仙と灯台」をキーワードに積極的に島づくりをすすめています。水仙見学ツアーや夏の水仙植栽ツアーを実施し、その取組によって水仙も増え、リピーターの観光客が大勢訪れるようになっています。

平成 23 年から六島まちづくり協議会を設置し、島づくりに若い世代の力を借りようと「インターンシップ」事業を展開しています。これまで、平成 24 年度から毎年春と夏に 2～7 名のインターン生を受け入れています。インターン生の発案で、空き家を利用した「島小屋」をリノベーションし、平成 28 年 11 月 1 日にオープンしました。現在、「島小屋」は関係人口の受入窓口としての機能を果たしています。

推進組織

六島まちづくり協議会

地域の特徴

毎月 1 回のまちづくり協議会定例会で島内の情報共有を行い、人口は少ないがインターン生をはじめ島外の応援団や水仙や島小屋を活かした関係人口増の取組を実施中です。

地域おこし協力隊ＯＢが、島内でビールの醸造所を建設しました。

代表的な取組

○「瀬戸内海六島塾」の開催

過疎高齢化の中、島外の方が，まず関係人口として関わり、そして「移住」につなげる事業展開が必要とされる中で，島の良さを積極的に島外の方々に伝える取り組みを「塾形式」で実施することのより、関係人口を増やします。

島暮らしは島民の方々が一番よく知っていることから、島民が講師になり、暮らしを体験できるプログラムになっています。



津山市 「高田（たかた）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　1,948 人

○高齢化率　　37.6%

○集 落 数　　4 集落

（R8.1.1）





取組の経過

旧津山市の北西部に位置し、景勝地“横野滝”を有する自然豊かな地域です。

また、紙漉き等の伝統工芸が盛んで、金箔合紙を製造し京都や金沢の金箔工芸品制作などにも寄与しています。

地区内にある高田神社では、秋の大祭に県重要無形文化財の獅子練りが演じられます。

高田地域ではこれまで、地域歴史文化の研究や愛育委員による健康指導など、各団体がそれぞれに活発な活動を行ってきましたが、各分野で課題の解決や新しい取り組みについて、高田まちづくり協議会が一括して協議し、活動しています。

令和４年度からは津山工業高校の学生を受入れ、地元の竹林を提供し、学生のものづくり教育への協力と製品開発に関わっています。

推進組織

高田町づくり協議会

地域の特徴

農地、里山を活かした産業の推進

代表的な取組

○農地・山里の産業の推進

ブドウやショウガの栽培を、農家と高田小学校の児童が共に取り組んでいます。津山東高校の助言の下地域の特産品づくりを目指し、収穫したブドウはゼリーに、ショウガはジンジャーエールとして商品化し、３年生とその父兄が高田地区文化祭に販売して収入を得ました。好評であっという間に売り切れました。今後特産品としての可能性を感じています。



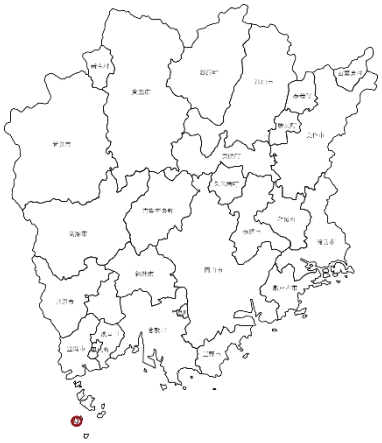
○公民館中心の地域づくり

公民館文化祭の開催や、子どもの居場所づくりとしての高田放課後子ども教室での各種アクティビティや子ども食堂の開催など、地域をあげての子育て体制づくりに取り組んでいます。



笠岡市 「飛島（ひしま）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　68 人

○高齢化率　　83.8%

○集 落 数　　1 集落

（R8.1.1）

取組の経過

小・中学校が閉校となり、一気に高齢化率が上がりました。高齢者が高齢者の面倒をみるという構図となっています。こうした中、少しでも住みよい島にするため、自治会組織をまちづくり協議会として位置づけ、地域と行政がお互いに情報を共有しながら取り組んでいます。

推進組織

飛島自治振興会

地域の特徴

飛島地区では、実際に居住している人口は約 30 名ですが、小・中学校が閉校となって子どもがいない島となり、笠岡諸島の中でも、高齢化率が一番高くなっています。限られた人材の中で、島民自らが考え、助け合いとつながりを築いています。

これまでの主な取組



○定期船の寄港に合わせて車両を運行し、島民の搬送や荷物の運搬などを行っています。

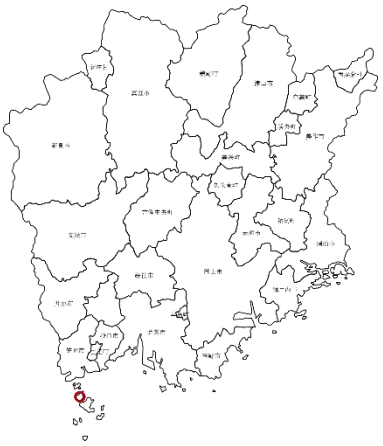
○高齢者等を中心とした島民のバイタルチェックや身体機能の維持・向上を目的としたリハビリ運動を行い、島民同士の交流を促進するサロンを開催しています。

○島内に自生している椿の種子から椿油を精製し、特産品として販売しているほか、椿や島内の環境整備を行っています。

○市が設置したイノシシ捕獲用わなの見回り・点検を行うなど、イノシシによる被害防止に協力しています。

笠岡市 「高島（たかしま）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　64 人

○高齢化率　　68.8%

○集 落 数　　4 集落

（R8.1.1）

取組の経過

平成 22 年 10 月には、地域のまちづくりを支援するため、市職員 3 名が地域担当職員として高島に配置されました。地域と行政がお互いに情報を共有しながら、身近で強い信頼関係を築き、協働で地域のまちづくりを進めております。

また、平成 24 年には「高島まちづくり協議会」を設置しました。

推進組織

高島まちづくり協議会

地域の特徴

高島地区では、実際に居住している人口は 70 名足らずで、高齢化が進む中、島民自らが考え行う様々な活動を通じて、助け合いとつながりを築いています。

これまでの主な取組

○婆ーちゃるショップ運営事業

島内の商店がなくなり、また、直接陸地部まで買い物に行くことが難しい高齢者のために、買い物代行活動を数年前から事業化しており、現在も「婆ーちゃるショップ」を月 2 回実施しています。

注文した商品については、回漕店まで取りに来てもらいます。それにより島民のコミュニケーションが図られ、交流の場としても利用されています。



○グリーンスローモビリティの運行事業

令和 2 年度から、高島自治会を中心に、市から貸与されたグリーンスローモビリティ（小型電気自動車）を活用し、島民の移動手段の確保及び福祉の向上を目的とした島内交通支援事業の実証運行を行っています。高齢者の移動支援や婆ーちゃるショップで回漕店まで受取りに行くのが難しい方への配達など、様々な用途で活用されています。



高梁市（びっちゅうちょう）「備中町西山（にしやま）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　157 人

○高齢化率　　47.8%

○集 落 数　　11 集落

（R8.1.1）

取組の経過

西山地域では、高原特有の気候を活かしたトマト・ピオーネが特産品です。特にトマト栽培では、平成 15 年に住宅付き営農団地として整備した栄農王国「山光園」があり、令和 5 年度で 20 周年を迎えています。しかし、地域全体では高齢化、過疎化が進み、農業を中心とした産業やコミュニティの維持も年々難しくなってきています。

こうした中、地域においては高齢者でも参加しやすい行事に切り替えて、地域にある特有の遺産を活用した行事で明るく楽しいまちづくりに努めています。

推進組織

西山コミュニティ協議会

地域の特徴

「山光園」への就農者と「西山観光振興組合」や、他の企業団体とともに新たな交流事業に取り組んでいます。

代表的な取り組み

○西山地域の中心に樹齢 300 年の「備中天神桜」があり、春には、地域住民により花見を開催しています。

○8 月のお盆には各企業団体に協賛いただき、西山オートキャンプ場で「夏祭りｉｎ西山高原」を開催し、野外コンサートや花火の打ち上げを行い、キャンプの愛好家と地域住民との交流を図っています。

○西山地域に生息する、県指定の絶滅危惧種である「ミチノクフクジュソウ」の生育環境を維持・管理するため、地域住民で年 2 回の草刈を行うとともに、日本野鳥の会との交流事業も始めています。



▲「ミチノクフクジュソウ」生息地での環境整備の様子（R6 年）

備前市 「三国（みくに）地区」の取組概要

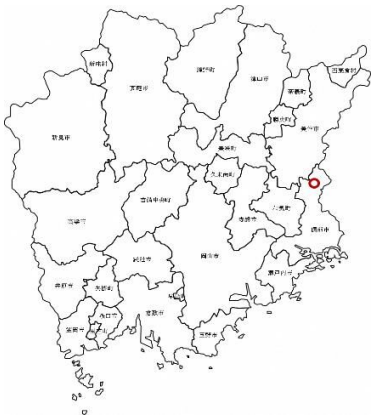
地域の概要

○人　　口　　173 人

○高齢化率　　56.1%

○集 落 数　　8 集落

（R8.1.1）





取組の経過

備前市の北部（旧吉永町）に位置し、西は美作市、和気町、東は兵庫県と接しています。

ＪＲ山陽本線吉永駅から北へ約 15～20 キロ、八塔寺川の上流に広がり、大半が標高約 400m の高原地域です。八塔寺ふるさと村には、茅葺屋根の民家が点在し、のどかな日本の原風景が広がっています。

近年、過疎化・高齢化が進み、地区の行事や共同作業が困難となってきたことや、有害鳥獣（鹿やイノシシ）の被害が大きいため、「おかやま元気！集落」として対策に取り組んでいます。地区に移住した元地域おこし協力隊員と協力し、有害鳥獣の駆除や耕作放棄地を活用した特産品の開発、八塔寺ふるさと村を中心とした観光振興などを検討しています。

推進組織

三国地区振興協議会

地域の特徴

自然を生かし、住みよい地域づくりと、ふるさとへ若者を呼び返す施策の推進

代表的な取組

○地域交流事業

八塔寺ふるさと村写真コンテストの写真を募集したり、11 月に「三國渓紅葉まつり」を開催したりして、外部からの関係人口、交流人口の増加を図るためのイベントを地域住民と共に行っています。



○特産品の開発

元地域おこし協力隊と協力して、耕作放棄地を活用しにんにく・さつまいも等を作付・収穫しています。

にんにくを加工した黒ミクにんにく、備前焼の破片を使った備前焼いもは特産品として定着しつつあります。

ハウスでは路地もの野菜も植え、新たな特産品として販売することも可能となり、地域の活性化を推し進めています。



西粟倉村 「大茅（おおがや）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　174 人

○高齢化率　　49.7%

○集 落 数　　4 集落

(R8.1.1)





R7 年 5 月休息所より

取組の経過

西粟倉村には 12 の行政区が自治組織として機能しています。どの地域も自治意識は旺盛ながらも人口減少と高齢化の進展と共に様々な困難が生まれてきています。大茅地域はかつて、最も人口の多い地区でしたが、大幅な人口減と高齢化に危機感を持っていました。自治会内の組織 4 カ所のうち 1 カ所は特に高齢化と人口減が激しく、単独の地域の維持が難しい状況にあります。

そのような中、平成 26 年度に自治会全体の結束を高め、地域活性化の一助とすべく、行政に頼ることなく地区の住民の手で、雪の多い地域性を生かしたイベントを村内外に呼びかけて実施しています。そして平成 27 年度に継続性を重視し大茅地区活性化協議会を設置し、10 年先に予想される高齢化に対して、「花と文化のふるさとつくり」を岡山県「げんき集落」事業を活用し活動を始め「地域に誇りを持ちいきいきと暮らす」事を目指します。

推進組織

大茅地区活性化協議会

地域の特徴

大茅地区は「若杉天然林」「1,100ｍの高原　ダルガ峰」等の本物の自然と祖先より引き継がれてきた文化遺産「大茅区有文書」を有し、これらを生かした取組を行っています。 7 年度は農水省「ディスカバー農山漁村」の中四国農政局管内で選定地区となりました。

代表的な取組

○芝桜一般公開

棚田の斜面に 17,500 株植付けた芝桜は「おおがや芝桜公園」として、令和 7 年度春には 7,000 人の来園者がありました。ボランティア活動等を活用し美しい景観が維持できるよう更新植付を行っています。

○地域資源を活用したイベント開催

夏休みに集落の史跡等のフットパス、親子で少し勇気の要る源流の川上り、水中観察、川の砂鉄採集、魚のつかみ取りを行っています。スマート望遠鏡利用による彗星、星雲観察会を行い「星空少年」の復活を目指しています。

○スカイランタンの復活

環境に優しい新世代の「スカイランタン」を 7 年に復活させました。

○「大茅区有文書」の漫画化

「山村の暮らし、山仕事の技」冊子に続き、地区に残る古文書の漫画化を 7 年より 3 年計画で進めています。地区の文化資産を次世代に繋いでいく為の取組です。

○花桃を植えて「耕作放棄地解消」の取組

寿命のある芝桜の補完として芝桜公園の周囲に花桃の植栽を行っています。最終的には「耕作放棄地解消」と「花の咲き誇る集落」を目指します。

西栗倉村 「知社（ちしゃ）地区」の取組概要

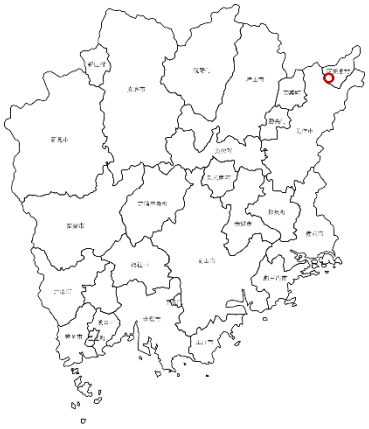
地域の概要

○人　　口　　42 人

○高齢化率　　40.5%

○集 落 数　　2 集落

(R8.1.1)





取組の経過

西栗倉村には 12 の行政区が自治組織として機能しています。どの地域も自治意識は旺盛ながらも人口減少と高齢化の進展と共に様々な困難が生まれてきています。知社地区は 12 地区の中でも戸数が少なく、高齢化が進んだ地域として早くから危機感を持っていました。行政に頼るばかりでなく、もう一度地区の住民の手で地域を盛り上げていこうという機運が高まってきており、各種の団体と連携し、様々な地域活性化に向けた取組を行っています。平成 27 年に知社村活性化協議会を設置し、地域づくりを推進しています。

推進組織

知社村活性化協議会

地域の特徴

各種団体と連携した交流の村

代表的な取組

○空白地有償運送の充実

地域内の特に運転免許を返納した高齢者の生活を支えるために、地域内の住民が送迎を担う活動を実施しています。

○集落やすらぎ施設の充実

岩滝神社をやすらぎの場と位置づけ、多くの方との交流の場として、協議会で公園化を行い、夏祭り、秋祭りを実施しています。

○交流イベントの開催

毎年 7 月に道路愛護、8 月に河川愛護、12 月に地区公民館でのクリスマス会などの交流イベントを実施し、岡山大学や鳥取大学などの学生ボランティアに参加いただき、交流しています。

真庭市「樫邑（かしむら）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　367 人

○高齢化率　　47.9%

○集 落 数　　15 集落

（R8.1.1）





取組の経過

この地域には、「樫の木会」という若者から年長者まで幅広い年齢層で組織する任意の住民団体があり、「上野（うえの）こうげ」という草原で、菜の花を育て菜種油を生産する取組が行われています。広域なエリアで助け合いながら、移住者の受け入れや特産品販売による自主財源の確保などの取組を行い、自立した地域活動が行えるような組織づくりへと転換しつつあります。

推進組織

樫の木会

地域の特徴

樫邑地域は、岡山県三大河川の一つ旭川の源流域にあたり、緑豊かで水のきれいな地域です。古くから三椏（みつまた）栽培が盛んで、地域の特産として「樫西和紙」があります。また、地元の樫邑小学校は、全校児童８名であり、少子化が進む地域です。

代表的な取組

○かしむら菜種油事業

菜種「ななしきぶ」から菜種油を搾り、地域の特産品にして自立した地域となるようチャレンジしています。種まき、刈り取り、選別もほとんど手作業で、農薬も肥料も使わずに栽培し、焙煎や搾油まで実直に作りあげた「かしむら菜種油」で揚げた天ぷらは、市販の油とは違い、口に残る油っこさがなくサクッと揚がり絶品です。

○かしむら遊び隊

上野こうげの真向かいにあるどんぐり広場で、子供たちを対象に自然の中にあるものを使って、自然の中で遊ぶイベントを開催しています。樫邑以外の子どもたちも参加して、大人も子どもも楽しく遊んでいます。季節に応じたイベントも好評です。

○きらきら計画実行委員会

これまで地域活動団体が、それぞれで活躍していましたが、きらきら計画実行委員会として一丸となって、樫邑地域を盛り上げようと活動しています。「ミツマタの郷」と呼ばれ、ミツマタの産地として名高い樫邑地域はミツマタの植栽に着手しています。



美咲町 「北和気（きたわけ）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　1,012 人

○高齢化率　　35.6%

○集 落 数　　48 集落

（R8.1.1）





取組の経過

北和気地区は、美咲町の北東部に位置し、吉井川支流の甲和気川沿いの平坦地域と標高 250m 前後の起伏の激しい丘陵地に集落が点在しています。120ha の農地はあるが後継者不足から、地元農事組合法人が集積し水田を守る一方、和気山を中心に酪農、養豚も営んでいる中山間地域です。令和６年４月に北和気地区南部の書副に、義務教育学校の柵原学園が開校しました。今後は柵原学園との連携を図りながら、郷土資料館を中心に、同じ敷地内のコミュニティセンターや屋内体育館、グラウンドを活用し、まちづくり活動を推進します。

推進組織

令和６年８月に小規模多機能自治集落に認定され、北和気地区コミュニティ推進協議会の中に北和気盛り上げ隊を立上げ、その中の４部会で地域の課題に取り組んでいます。

地域の特徴

主な産業は農業で、津山市や勝央町･美作市と隣接しているため、車の運転ができれば買い物や通院・通勤などには比較的に便利な地域です。

代表的な取組

伝統工芸の継承や各種交流イベント活動により、地域の活性化を図っています。



○拠点施設を活用した伝統工芸の継承・イベント活動等

北和気郷土資料館を拠点に、地域発祥の「百々（どうどう）人形」の継承活動として、地元はもちろん町外への出前講座などに積極的に取り組んでいます。





○地域全体の交流活動

以前から行っている、納涼祭や産業文化祭などは各世代が集え、交流できる場として盛大に開催してきました。

○若い世代の地域活動への参加及び他地域との交流を目指した活動

保育園児や老人会がカボチャを栽培し、中学生以下の子供がランタンを作成して、ハロウィンの祭りを開催しました。また、産業文化祭は子供達がものづくりやいろいろな体験ができるマルシェとして開催しました。どちらも各種のゲームや飲食店も設けて賑やかに行いました。北和気地区だけでなく、柵原を越え、町全体や近隣市町村にも案内しました。この催しには、地域を越えて子育て世代の家族が訪れ、合わせて６００人位の参加でした。今後、他地域との連携にも力を入れていきたいと思っています。





美咲町（みなみわけ）「南和気地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　644 人

○高齢化率　　46.0%

○集 落 数　　39 集落

（R8.1.1）





取組の経過

南和気地区は、美咲町の東部に位置し、集落は、乙和気川沿いに形成された平坦地域と東部に隣接した美作市に向けた中山間地域で形成されており、また、山間部には農地開発事業で整備された果樹団地があり、観光的農業拠点にもなっている地域です。廃校の跡地を利用した農村型リゾート「南和気荘」があり、そこを拠点に地域交流や農村交流が進んでいます。

推進組織

南和気コミュニティ協議会

地域の特徴

旧村（昭和の合併前）を単位とした広域的な活動組織で、農村型リゾート施設を拠点に地域の活性化にむけた活動（ウォーキング大会、納涼祭、文化祭、奉仕活動など）を行っています。

代表的な取組

○イベント活動による広域的な交流

南和気荘を拠点に納涼祭や文化祭、ウオーキング大会等を開催しています。

納涼祭では、若手役員が企画した「お化け屋敷」を取入れ、イベントへの若者参加を促しています。

また、毎週土曜日に開店する米粉パン屋「学校のパン屋さん」は、子どもからお年寄りまで体験することができる工房として、地域内だけでなく地域外からも多くの方が訪れるなど、広域的な交流にもつながっています。





○地域活性化に向けた人材育成等

地域活動の運営組織においては、各部門の役割を明確にするとともに、連携した活動ができる体制づくりを行うことで、継続的かつ広域的な地域運営を目指しています。

さらに、地域（集落）の課題解決に向けた研修を開催したり、大学生を招いて地域の活性化や情報発信を目指したディスカッションを行っています。



備前市 「東鶴山（ひがしつるやま）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　1,275 人

○高齢化率　　49.0%

○集 落 数　　21 集落

（R8.1.1）





取組の経過

備前市の南西部に位置し、西は瀬戸内市と接する地域で、鶴海（つるみ）と佐山（さやま）の 2 地区からなり、約 80%が山地です。鶴海地区は、ブルーライン鶴海インターから海沿いに広がり、佐山地区にはのどかな田園風景が広がっています。地区内には、柴田錬三郎生家、りおう山、菖蒲園、五本桜などの観光資源があり、イチジク、ぶどう、桃などの果物が栽培されています。

少子高齢化が進み、空き家や耕作放棄地が増加し、山林も手入れが行き届いていないのが現状です。集落機能の維持・強化や地域の活性化を目的として、「おかやま元気！集落」に登録し、耕作放棄地や空き家の対策に積極的に取り組み、人口減を食い止めたいと考えています。

推進組織

東鶴山地区を元気にする協議会

地域の特徴

海あり山あり里ありの豊かな自然環境を生かした子育てのしやすい地域の形成や若年層の定住化を図るための活動を行っています。

代表的主な取組

○地域交流事業・特産品の開発



ＪＡ事務所跡地を改装し地域内外からのお客様を迎えられるように喫茶を始めています。毎月開催のふるさとサロンでは、女性部が作る寿司・おかず・菓子等を大勢の方にふるまっています。11 月には「いも祭り」を開催し、栗園、花壇などの整備を積極的に行うほか、栗園にて地元小学生やこども園と栗拾いを開催するなど、引き続き、地域の観光資源となるよう地域一体となって取り組みます。

○景観保全



地区の入口の花壇の手入れを行い、一年中美しい花で来られた人々の目を楽しませるよう取り組んでいます。

真庭市「社（やしろ）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　171 人

○高齢化率　　52.6%

○集 落 数　　5 集落

（R8.1.1）





取組の経過

真庭市北部（旧湯原町）に位置する山間部で、自然豊かな地域です。また平安時代に朝廷から重視された格式の高い神社「式内社」については、美作地域に 11 社あるうちの 8 社がこの社地域にあるほか、中世の建造物とされる市指定重要文化財の大御堂は県内最古級の平安後期の部材が使用されていることがわかるなど、歴史的資源を豊富に有する地域です。また、農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に選定された社棚田があります。

社地域では持続可能な集落形成へ向け、地域資源を活用した小さな経済の創出や次の世代の若者が暮らしたいと思う地域づくりを目指し、活発に会議や勉強会を開催しています。

推進組織

社地域振興協議会

地域の特徴

歴史的地域資源の価値を改めて認識することから始め、活用方法の模索やさらには他分野の地域資源と組み合わせて外部への魅力発信を行い、交流人口の増加につなげ地域全体の活性化につなげています。

代表的な取組

○中世式内八社ガイド

式内八社をはじめとする地域の歴史や文化を伝えるため、社地域へ訪問される方に対して、歴史ガイドを行っています。

○つなぐ棚田遺産「社棚田」を活用したイベント開催

田植え・稲刈り・餅つき体験を実施し都市部との交流を図っています。

○竹灯籠づくり、やしろ竹あかりの開催

放置竹林の整備のため地域で伐採した竹を利用し、県内の大学生と協力して竹灯籠を作成。作成した灯籠を 12 月に佐波良・形部神社の境内に飾るイベントを開催しています。

○小さな経済の創出

地域名と同じ名前のもち米「やしろもち」を生産、しめ飾りや丸餅を販売しています。

○グリースローモビリティを活用した観光案内

環境に優しいグリーンスローモビリティで史跡めぐりや湯原温泉と連携し、積極的に観光客の足として利用。

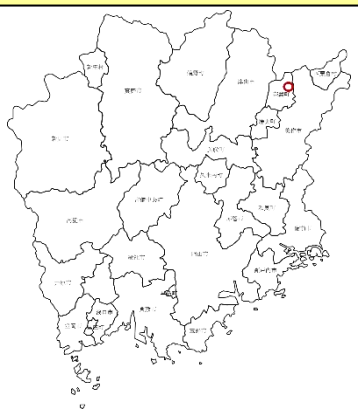
○空き家活用「神戸（ごうど）の館」

地域内の、空き家を活動拠点として整備し、体験プログラムの企画や会議に活用しています。



奈義町「小坂（おさか）地区」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　81 人

○高齢化率　　48.1％

○集 落 数　　6 集落

（R8.1.1）

取組の経過

小坂地区は奈義町の北東部に位置し、山間地に囲まれ、清流馬桑川沿いに集落、田畑が点在する地域です。

かつてはタケノコの出荷が盛んに行われていましたが、高齢化と竹林の荒廃による生産意欲の低下に伴い、年々減少傾向にあります。

近年、地区と地元婦人会が連携し、タケノコをはじめとする豊かな地域資源を活用し、交流人口の増加、地区住民の活力向上を図るため、タケノコ祭りなどのイベントの開催やタケノコの成長促進のために間伐した竹を竹炭として販売、炭焼体験の実施など、積極的に取組を行っています。

今後も地区、婦人会、地元消防団などが一体となって魅力あるイベント展開、新たな特産品の開発を行い、地域内外に広く「小坂地区」をＰＲしていきます。

推進組織

小坂地区活動組織

地域の特徴

「タケノコ」「竹炭」など豊かな地域資源を活かし、都市部との交流を図るイベントや特産品の開発に取り組んでいます。

代表的な取組

○タケノコまつり

平成 31 年 4 月には町内外から約 30 名に参加いただき「タケノコまつり」を開催しました。タケノコ掘り体験を行い、地元婦人会が丹精込めて作ったタケノコごはんや煮物を振る舞いました。



○新商品開発

竹炭パウダーや竹酢液などの新たな加工品の開発を実施し、また、県内飲食店などとコラボ商品の開発にも取り組んでいます。



矢掛町 「羽無（はなし）集落」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　35 人

○高齢化率　　80.0%

○集 落 数　　2 集落

（R8.1.1）

取組の経過

矢掛町の北部、標高 200m程度の位置にある中山間地域です。地域は山に囲まれた盆地で、中央に羽無川が流れています。地域外へのアクセスは、羽無川沿いと南側の山越えの 2 本の町道のみであり、地域が独立した地形になっています。

集落にある吉祥寺には海棠の古木があり、春には可愛い花が咲き、境内では地域住民による「海棠まつり」が開催され、町内外から多くの見物客が訪れます。

羽無集落の主要な産業は農業であったが、後継者不足が顕著になり、米の生産者は減少の一途をたどっています。

羽無集落は、住民が自助と共助の意識を持ちながら集落を維持しており、地域のつながりは強く、少子高齢化が深刻な状況の中で、地域の課題解決に取り組んでいます。

具体的には集落全体で住民の生活を支え合うと共に、他の集落や団体、大学生等と連携して、交流人口の増加を目指した「桃源郷はなしの里事業」を展開しながら、ゆくゆくは定住人口の増加につながる移住者の受入れに取り組んでいます。

推進組織

羽無自治会、桃源郷はなしの里（地域住民で組織する団体）

地域の特徴

平成３０年３月４日にオープンさせた休憩施設「憩いの館」を拠点に、地域住民による田舎食堂や農業体験、キャンプ場や宿泊施設の運営、大学生との交流受け入れ等を積極的に実施しています。若者や外部からの訪問者を受け入れ、集落の課題解決策を検討・実施しています。

代表的な取組

休憩施設を有効かつ継続的に活用するため、田舎食堂の運営では、毎週日曜日の営業を行い、季節に応じて地元食材を使用したランチや軽食を提供しています。

さらに体験交流事業として、原木椎茸菌打ち、釜炒り番茶づくり、そうめん流し、カブト虫つかみ取り、杵つき丸餅づくりをはじめ、芋掘り、落花生掘り、自然薯掘りの収穫体験、窯焼きピザづくり体験等を行っています。

また、キャンプやキャンピングトレーラー、宿泊棟を活用して、ほたる観賞や星空観賞、真空管ＬＰレコードコンサートを開催する等、静かで真っ暗な夜の魅力も提供しています。



井原市（おおえ）「大江地区」の取組概要

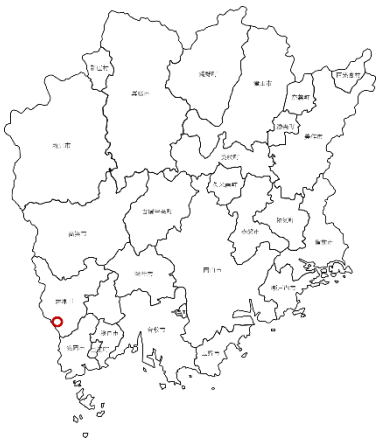
地域の概要

○人　　口　　1,672 人

○高齢化率　　41.5%

○集 落 数　　35 集落

（R8.1.1）





取組の経過

井原市の西南に位置し、福山市神辺町に隣接する地域で兼業農家と会社員の多いベッドタウンです。大江地区の住民が自ら郷土の将来像を考え、その実現に向けて行動するとともに協働のまちづくりを推進することを目的に協議会を設立しました。

実施したアンケートでは、地域の特産品を開発から販売へとつなげる六次産業化で働く場所をつくり、子供達が大江に住みたいと思える町づくりが優先課題として挙がりました。

一部の人たちだけが関わるものではなく、地域住民一人ひとりが地域に誇りと自信を持ち、ともに協力し合いながら地域づくりに参加して、住民一丸となってより良い大江地区を築くために取組を行っています。

推進組織

大江まちづくり協議会、大江まちづくり いきいき菜園の会

地域の特徴

大江の特産品として、ウコン・ニンニクの生産、さらに六次産業化としてウコンとニンニクの粉末加工や黒ニンニクを生産・販売しています。町内には、老いても嫁の手を煩わすことなく、健康で幸せな生涯を全うできるという霊験もある「嫁いらず観音院」があり、ここを拠点とした地域活性化の取組を行っています。

代表的な取組

嫁いらず観音院には春秋の大祭を中心に、市内外から多くの参拝者が訪れますが、隣接する飲食・土産物店が閉店したこともあり、参拝者は減少傾向となっていました。

そこで、嫁いらず観音院で平成 28 年 12 月に、地元住民が運営する青空市「観音マルシェ」を新しい試みとしてスタートさせ、春・秋の大祭と毎月第 3 日曜日に実施しています。

にんにく祭り（ガーリックフェスティバル）を平成３０年より開催しています。

大江町の特産品として少しずつ知られてきたにんにくが大人気です。約６万個のにんにくが、秋までには売り切れてしまいます。毎年６月の第１の日曜日に大江公民館で開催します。にんにくまみれの１日を大江で過ごしてみせんか。十数店を超えるにんにく料理の屋台が並びます。駐車場も完備しています、皆様のお越しをお待ちしています。



観音ﾏﾙｼｪは 70 回を達成



筋肉ﾚﾃﾞｨｰのﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ

奈義町 「上町川（かみまちがわ）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　235 人

○高齢化率　　38.7%

○集 落 数　　5 集落

（R8.1.1）





取組の経過

中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払制度など活用し、農地保全や景観形成を地域全体で積極的に行っています。

一方で近年は少子高齢化の進行により、地区住民数が減少してきており、耕作放棄地の増加（H23 約 0.7ha⇒H28 約 3.4ha）や伝統的な祭事の衰退、担い手不足など、集落機能の維持が困難となりつつあります。

推進組織

上町川地区

地域の特徴

上町川地区は奈義町の最西に位置し、「黒ぼこ」と呼ばれる火山灰土を含む土壌が広く分布しており、この土は通気性や排水性が高く里芋栽培に適していることから粘り気が強く良質な里芋が栽培されています。

代表的な取組

○イベントへの出店

令和元年 11 月に津山市で開催された「マルイフードフェスタ」、12 月に岡山市で開催された「さとまちフェスタ」で芋煮や黒ぼこ里芋、地区で採れた野菜等を販売し当地区のＰＲを行いました。



○販路の拡大

マッチングセミナー等の活用により、販売先の拡大を行い、スーパーマーケットや直売所への販路を広げました。



奈義町「中島東（なかしまひがし）地区」の取組概要

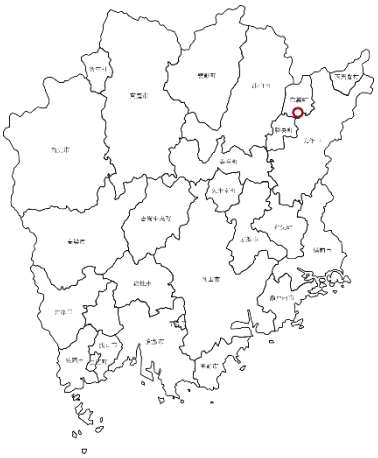
地域の概要

○人　　口　　206 人

○高齢化率　　43.7%

○集 落 数　　7 集落

（R8.1.1）





取組の経過

中島東地区には弘化 3 年（1846）に建てられた、江戸時代の歌舞伎専用舞台「松神神社歌舞伎舞台」があり、昭和 38 年岡山県重要有形民俗文化財の指定を受けています。この歌舞伎舞台では、地元有志が発足した「中島東松神座」が毎年四季の公演「春」として定期公演を行っており、各地の舞台が失われていく中、地区の人々の愛着と熱意により地歌舞伎の伝統文化が大切に受け継がれるとともに、子どもからお年寄りまで世代を越えた地区住民の交流の場となっています。また、地区外からも多くの観客が訪れており、交流人口の増加、地域の活性化にも寄与しています。

推進組織

中島東地区

地域の特徴

秋には奈義町文化センターで 2 日間の大公演、夏と冬には歌舞伎の PR と普及を図るため、県内外を公演するなど精力的に活動しています。

しかし、近年は高齢化の進行や地域を担っていく若者の減少による後継者不足、舞台や小道具の老朽化などの影響で伝統文化の衰退など地域社会の活力が低下しつつあります。

代表的な取組

例年、4 月の下旬には横仙歌舞伎四季の公演「春」を開催しています。地元中島東松神座をはじめ、横仙こども歌舞伎教室も演目を上演し、毎年県内外から約 400 人の来場者があり、大きな声援と拍手に包まれます。



また、令和 3 年度にはコロナ禍でも地域内外に活動を PR するため、歌舞伎の動画を YouTube にて配信を行いました。

令和 2 年度には、松神神社南の古民家をリノベーションし、歌舞伎の館「松神館」を設置し、今後は「松神館」を活かしながら、地下芝居の公演への参加、独自の体験プログラムの構築をすることで関係人口による集落機能の維持・強化を図っていきます。



矢掛町 「江良（えら）集落」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　438 人

○高齢化率　　45.7%

○集 落 数　　9 集落

（R8.1.1）

取組の経過

江良地区は矢掛町の南西部に位置し、田園風景の広がる自然豊かな山間地域です。東西には小田川が流れ、南部には、矢掛町を一望できる伽藍山があり地域のシンボルとなっています。江良地区は山間地域ですが、比較的生活環境の整った地域です。しかし、高齢化率は 40%以上となっており、急速に高齢化が進んでいます。

輝け！江良元気会は、岡山大学の学生や留学生との交流を通じたグローバルな地域づくりを目指して発足しました。地域の諸団体と協力して、地域の活性化や生活しやすさの向上のために、若い世代を中心に活動しています。

推進組織

江良自治会、輝け！江良元気会

地域の特徴

大学生や外国人留学生の受け入れを積極的に行い、岡山大学生との交流などを通してグローバルな町づくりを展開するため、国際的センスを備えた人材の育成を目指しています。

代表的な取組

（1）人と文化の交流及びグローバル化の取組として、岡山大学の留学生のホームステイや留学生と地域住民が協力した田植えや稲刈り等を実施しています。

（2）地域のフードロスゼロを目指し、岡山大学の学生と一緒に地域を散策し、余剰農産物の利用方法などを話し合っています。継続して発案していきます。

（3）江良地区の宝探しとして、岡山大学の学生と一緒に、江良地区の散策や地域住民の皆さんと会話を通して、江良地区の魅力の調査を継続しています。



久米南町 「下籾（しももみ）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　72 人

○高齢化率　　40.2%

○集 落 数　　6 集落

（R8.1.1）





取組の経過

平成22年　住民会で移住と空き家確保の取組開始
（家主との交渉、町空き家バンクの利用推進）

平成23年　東日本大震災からＳＮＳを通じた出会いにより移住者増加
住民会で移住者の生活をサポート（農地の確保支援など）

推進組織

楽じゃ！もむら暮らし

地域の特徴

「下籾地区」は、標高300～350mにある集落で、日当たりと景観は格別です。しかし、人口の域外流出により過疎高齢化の勢いが加速して、昭和45年に170人いた人口は平成17年には95人にまで減少し、高齢化率は50%を超え、農業、地域の担い手がいなくなりました。そんな中、集落内の自治会役員を中心に、平成22年から空き家確保と移住者支援の取組を開始しました。平成23年の東日本大震災以降SNS等を通じた出会いがきっかけとなり、移住者が増加し、高齢化率は40%にまで下がりました。

しかし、過疎高齢化の解決に向けて未だ課題は山積みで、近年さらに増えてきた空き家の流動化や、地域全体で移住促進への合意、域外流出者のUターン促進などに向けて、地域が主体的に移住者と先住者での受け入れ態勢の整備を目指した取組を行っています。

代表的な取組

○下籾地域での地域交流事業

（田植え体験、稲刈り体験、餅つき体験等）

○移住体験ツアーの受入

行政と協働してツアーを実施。

○自治会と連携した住民ヒアリング

地域住民の意向調査等を実施。

○集落情報冊子の作成



奈義町「馬桑（まぐわ）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　60 人

○高齢化率　　43.3%

○集 落 数　　5 集落

（R8.1.1）





取組の経過

馬桑地区は、岡山県の最北部、鳥取県との県境に位置する渓谷地です。

中国山地の分水嶺から湧出する冷涼な流水に育まれた「天然わさび」が渓谷の随所に生育し、この天然わさびの本来持つ辛みと旨味を生かした「わさび漬け」は自家消費やお土産品などの貴重な特産品として、先人から当該地区に伝承されてきました。しかしながら、近年の温暖化に伴う集中豪雨や栽培農家の高齢化などにより、天然わさびは根こそぎ流出し皆無に近い状況となりつつあることから、平成25年度からは、地区有志を中心に近隣高校と連携し、「わさび田復活プロジェクト」として、わさび苗床の整備や苗の定植などの取組を行っています。

こうした取組に加え、わさび苗床の拡大やわさび漬けのブラッシュアップ、新商品の開発などを行っていく予定です。

推進組織

馬桑地区

地域の特徴

馬桑地区は奈義町の最東に位置し、周辺を山地に囲まれ、南北に清流馬桑川が流れる自然景観豊かな中山間地域です。

代表的な取組

○わさび苗床の維持、拡大

馬桑地域独自の地域資源でもある「わさび」の復活を目指し、「わさび田復活プロジェクト」として近隣高校と連携し、わさび苗床を復活させています。わさび苗床に、防暑・防塵対策用の上屋根を設置し、わさびの育成を行っていきます。





○わさび漬けのブラッシュアップ、新商品化

今後は、古より伝わる「わさび漬け」を、専門家のアドバイスをもとに、ブラッシュアップや新商品の開発を行うとともに、地区外への販売体制を確立させていきます。

久米南町 「山手（やまて）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　124 人

○高齢化率　　45.1%

○集 落 数　　7 集落

(R8.1.1)





取組の経過

平成 27 年に「コンシーデレ山手」を組織し、それぞれの立場や各種団体でできることの情報交換や企画立案を進め、各種団体の活性化と住民全体のつながりを図る活動に取り組んでいます。さらに、移住希望者（新規農業従事者等）と地区住民、地区住民同士（高齢者と若手、担い手）の交流や共同事業の実施や地区内の空き家活用の検討等を通じて、コミュニティ全体の活性化や山手地区への移住・定住促進にも取り組んでいます。

推進組織

コンシーデレ山手

地域の特徴

山手地区は、久米南町の南部、岡山市、赤磐市と隣接する高原地帯に位置します。明治 37 年の甲州ぶどうの栽培導入をきっかけに、地域をあげてぶどう栽培が盛んに行われており、現在では町を代表する特産品の一つになっています。ＪＡ・ぶどう部会と行政が連携した新規就農者確保に向けた取組を行った結果、約 30 戸あるぶどう農家のうち半数は新規参入者となり、平成 21 年から平成 25 年までの 5 年間で 2.89ha ものぶどう農地を再生し、1 農家の平均栽培面積は、県内随一の広さを誇る産地となりました。

代表的な取組

○「山手夏祭り＆山手フォトコンテスト」開催

○地域運営に向けた勉強会

○空き家検討会

空き家情報の整理、専門家や先進地域を招いた空き家視察、地域住民による片づけ・改修ワークショップを実施しています。

（空き家検討事業は岡山県市町村空き家モデル地区事業に選定されました。）

○移住相談



井原市 「野上（のがみ）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　321 人

○高齢化率　　56.6%

○集 落 数　　14 集落

（R8.1.1）





取組の経過

野上地区まちづくり協議会では、野上町にこの先 10 年後、20 年後住み続けられるように“野上地区まちづくりアクションプラン”を作成しています。

平成 27 年に実施した「野上地区まちづくりアンケート」の結果から、私たちがこれから為すべきこと、またはその目標として取り組んでいく柱が見えてきました。これらの目標に向けてみんなが取り組むことで、野上町の将来を変えていこうとするものです。

推進組織

野上地区まちづくり協議会

地域の特徴

アクションプランにより課題を大きく 3 つに分けて実施し、野上町に笑顔を増やす活動を行っています。

【其の壱】人を増やす

【其の弐】いつまでも安心して住み続けられる環境をつくる

【其の参】小学校・幼稚園を守り地域で活用する

代表的な取組

野上地区では、いつまでも住み続けられる環境にするため、日常生活において通院や買い物などが自らの意思でできることが、非常に大切であると考えており、主に移動手段が無くなった高齢者を対象に買い物支援タクシーを独自に運行しています。

また、里山活用事業では、町内の間伐材や支障木を用いたシイタケ栽培体験事業を行い、野上町外の多方面から参加していただき交流人口の拡大につながっているものと考えています。





備前市 「神根本（こうねほん）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　257 人

○高齢化率　　50.2%

○集 落 数　　6 集落

（R8.1.1）





取組の経過

備前市の北部（旧吉永町）に位置し、西は和気町、東は兵庫県と接する山間地域です。JR山陽本線吉永駅から北へ約5キロ、南北に流れる八塔寺川沿いに集落が点在しています。地区内には、老人ホームや工業系の企業があり、農地では水稲、野菜、落花生などが栽培されています。

地区内にあった小学校・幼稚園が平成29年に廃校になり、同時期に唯一の食品・雑貨の小売店が閉店しました。人口減少と高齢化が一気に進んでいることから、おかやま元気！集落に登録し、神根地域の集落機能を維持し、活性化に取り組みたいと考えています。

推進組織

神根本区

地域の特徴

備前三宮である神根神社をはじめ、豊かな自然環境に点在する史跡など歴史・文化を掘り起こし、神根の魅力を再発見し内外に広めていきます。

代表的な取組

○地域交流事業

恒例の全体行事として、春祭り、盆踊大会、グラウンドゴルフ大会、歩こう会、敬老会を開催しています。10月の第3土曜日には神根神社の境内において、約300年前から伝わる神根神社獅子舞が奉納されますが、近年地域内外から多くの方が参加され賑わっています。



また、旧神根幼稚園舎を誰でもいつでも立ち寄れる「憩いの広場」として開放し、高齢者の閉じこもり解消や、子どもや学生の余暇の場として世代を超えた交流拠点にしたいと思います。



今後、喫茶や食事のサービスをはじめ、地域で健康づくり・認知症予防の事業、趣味の集いなどを通じて楽しく健康寿命を延ばす活動に取り組み、地域を元気に盛り上げていきたいと考えています。（月１健康体操と音楽療法と食事をする）

高梁市 「備中町布賀（びっちゅうちょう ふ か）」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　144 人

○高齢化率　　50.0%

○集 落 数　　5 集落

（R8.1.1）





取組の経過

布賀地域は高原部に位置し、5 つの集落で構成され、エリア面積も 4.5 ㎢と備中町内にあっては小規模な地域です。それだけに地域内の協力体制などまとまりのよい地域でもあります。

人口は 150 人（令和 7 年 1 月 1 日現在）で、そのうち 2 人に 1 人が 65 歳以上という高齢化地域であり、今後も人口減少と少子高齢化はさらに進むことが予想されます。しかしながら、コミュニティ活動はかねてより活発に行われており、現在でも老若男女を問わず、多くの住民が参加しています。

推進組織

布賀地区コミュニティ協議会

地域の特徴

小規模地域だけに地域内のまとまりもよく、特にコミュニティ協議会主催のイベントや伝統行事である秋祭りなどに地域外の若者も帰省して参加（画）することで、事業の継続が図られています。

代表的な取り組み

○後継者（20 歳～40 歳）による市道等の支障木の伐採など道路環境整備事業を継続的に行っています。

○地域出身の子供たちも交えたイベント「一布賀（いちふか）元気キッズ」では、12 月にイルミネーションを設置するなどクリスマスイベントを行っています。



▲一布賀ぼっけぇ祭り（R6 年の様子）

鏡野町 「富（とみ）地区」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　475 人

○高齢化率　　55.2%

○集 落 数　　37 集落

（R8.1.1）

取組の経過

富地区は鏡野町の西部にあり、岡山県の最北部近くに位置しています。かつては木材と肉用牛の生産地として栄えてきましたが、現在はそのほかに「ヒラメ（アマゴ）」「椎茸」「自然薯」「水稲」などの養殖・栽培がなされています。

また、多くの観光資源があり、観光・入込客が増加しているため、観光・産業振興対策は地域をあげて取り組まれつつあります。

一方、人口の減少と高齢化により、集落の活動や伝統文化の伝承・維持も近い将来困難が予想されます。農業・観光の振興、文化・スポーツ、健康及び福祉、防災・防犯、環境など多くの分野での課題が生じてきます。

住民が協力し、地区課題への積極な取組により、豊かで住みやすい地域づくりを推進することを目的に、平成 22 年に「富地区地域づくり協議会」を立ち上げ、地域主体のまちづくりに取り組んでいます

推進組織

富地区地域づくり協議会

地域の特徴

白賀渓谷や国指定重要文化財の旧森江家住宅など観光スポットが豊富にあります。

代表的な取組



○地域イベント振興事業

地域の自然、文化的な各イベントの振興発展を図っています。

○写真コンテスト開催事業

地域の自然や風土、人々の営みのほか、伝統的行事や文化を対象とした写真を募集し、コンテストを行っています。



○高齢者見守り・サポート事業

高齢者に「見守り弁当」を作り、安否確認を兼ねて訪問する見守り活動を行っています。

○安心・安全な町づくり事業

災害時に安心して利用できるように地区集会所のバリアフリー化や、防犯灯を設置し防犯対策に取り組んでいます。

新見市 「足立（あしだち）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　70 人

○高齢化率　　58.5%

○集 落 数　　8 集落

（R8.1.1）

取組の経過

新見市の北部に位置し、主な産業は、農林業や石灰業です。

足立地区では、古くから団体活動やボランティア活動など、自主的に様々活動を行ってきましたが、人口減少などにより様々な課題が浮き彫りとなってきました。

そこで、持続可能な足立を目指していくために、「小地域ケア会議」での話し合いや、「足立ふれあいデイ」での「フリートーク」などに取り組みながら、地域課題をみんなで共有するとともに、地域のこれからを話し合い、「足立地域まちづくり計画」を策定しました。

令和２年８月に地域運営組織として再スタートを切った「足立地域振興会」を中心に、住民一丸となって、地域づくりに取り組んでいきます。

推進組織

足立地域振興会

地域の特徴

住民同士の交流と地域資源の掘り起こし

代表的な取組

人口が少なく、住民同士の繋がりが強い地域性を活かして、「足立ふれあいデイ」や「友愛訪問事業」、「親睦活動」など、住民同士が交流する機会を多く設けています。

新たな取組としては、「命と健康を守る」をテーマに月二回健康教室を開催しています。医療専門職講師による講話・指導とその都度自由テーマで話し合うサロン形式で行っています。その話し合いの中から人生会議や男性料理教室に取り組みました。





新見市「大佐田治部（おおさたじべ）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　496 人

○高齢化率　　44.9%

○集 落 数　　15 集落

（R8.1.1）

取組の経過

旧大佐町の田治部地区は、新見市の東部に位置し、JR 姫新線の丹治部駅や大佐スマートインターチェンジが立地する田園地帯です。

古くから、各種団体の活動や地域福祉事業などが活発に行われていましたが、これからの人口減少時代に備え、これまで地域づくりを担ってきた地区内の５つの組織を整理統合し、令和２年９月に地域運営組織「田治部みらい会」を設立しました。

設立時に策定した「田治部地域まちづくり将来計画」に基づき、地域の将来像である「心と心で支え合う　笑顔で創る田治部の未来」を目指し、これからも取組を推進していきます。

推進組織

田治部みらい会

地域の特徴

イベントによる賑わいと住民同士の交流機会の創出

代表的な取組

旧田治部小学校区を範囲とするコミュニティとして、古くから各種団体活動や地域福祉事業、地域振興活動などが活発な土地柄であり、自主的に様々な行事や活動に取り組んでいます。

毎年６月に開催している「田治部ふれあい花まつり」では、地域で育てた花の販売や屋台の出店などがあり、多くの来場者で賑わいます。

旧田治部小学校「たじべ笑楽交（しょうがっこう）」を拠点として、ふれあいカフェ、こども広場、クリスマス会、運動会など住民同士の交流の機会も設けており、恒例行事となっています。また、地域の女性有志が販売する「同級生カレー」は７年目を迎えます。毎月（木曜日）開催を楽しみに来場していただいています。

どの行事も和気あいあいと楽しく取り組んでいます。





新見市 「上熊谷（かみぐまたに）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　592 人

○高齢化率　　53.8%

○集 落 数　　33 集落

（R8.1.1）

取組の経過

新見市の市街地から５ｋｍほど東に位置し、地区内を東西にＪＲ姫新線、県道新見・勝山線が走り、中心部に熊谷川が流れている山間に囲まれた穏やかな田舎町です。

令和２年７月に小規模多機能自治に取り組む地域運営組織「支え合う上熊谷をつくる会」を設立し、これまで地域振興などに努めてきた振興会など組織団体を吸収しながら、少子高齢化、人口減に対応するため、地域での助け合い活動の活発化で安心してこの地域で暮らせる、この地域で良かったと思われる地域となるよう取り組んでいます。

また、同会は、「上熊谷自主防災会」を兼ねており、避難訓練をはじめ、高齢者など避難移動を支援する「個別支援計画」を令和５年度より運用開始しています。

今後、特に人口の大幅な減少が予測される中、生活環境、地域環境の変化を予想しながらセーフティーネットの一助となれるよう活動していきます。

推進組織

支え合う上熊谷をつくる会

地域の特徴

兼業農家が多く、耕作放棄地も少ない。鳥獣被害は特に近年多発。

代表的な取組

５つの部会ごとに特色ある活動をしています。

地域安全部会では、自主防災会の事務局として避難場所設営訓練のほか個別支援計画書の更新、学童通学路の危険物除去などに取り組んでいます。

福祉推進部会では、友愛訪問事業や高齢者サロンの開設、学童放課後預かりに取り組み、子育て支援にも力を入れています。

文化交流部会は、塩城山山登り道の整備、とんどまつり、納涼祭の支援、敬老会のアトラクションに取り組んでいます。

地域振興部会は、年８回開催している「みんなの朝市」などに取り組んでいます。

昨年から新たに女性部会を設置し、小学校でのミシン、裁縫、本読みのほか地域内の公園管理、各種イベント時の炊き出し、敬老会の運営、おひな祭りなどに取り組んでいます。

全体では、山村広場・小学校跡地の定期的な草刈り・整備、市民センター内に設置された地域づくりセンターの維持管理業務を市から受託し運営にあたっています。また、JR 岩山駅前広場の清掃業務の受託、加えてＪＲ姫新線の利用促進として近隣の地域に姫新線を利用して希望者の皆さんと楽しい小旅行を実施し大変好評でした。





新見市 「唐松（からまつ）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　723 人

○高齢化率　　48.8%

○集 落 数　　20 集落

（R8.1.1）

取組の経過

新見市の中心部からやや南に位置し、地区の中心を流れる小阪部川には蛍が舞うなど、自然豊かな地区です。

古くから各種団体の活動や行事などが活発に行われていましたが、これからの人口減少時代に備え、これまで地域づくりを担ってきた地区内の２つの組織を統合し、令和元年６月に地域運営組織「唐松まちづくり協議会」を設立しました。

設立時に策定した「唐松地域まちづくり将来計画」に基づき、地域の将来像である「みんな笑顔でやさしい地域　オール唐松で未来へつなごう」を目指し、これからも取組を推進していきます。

推進組織

唐松まちづくり協議会

地域の特徴

イベントによるにぎわいの創出と住民福祉の向上

代表的な取組

旧唐松小学校区を範囲とするコミュニティとして、古くから各種団体活動やボランティア活動、小部落毎の行事などが活発な土地柄であり、自主的に様々な行事や活動に取り組んでいます。

特に、毎年４月に開催しているチューリップ祭りには、地域外からの来場者も多く、地区を代表するイベントとなっています。

イベント以外にも、敬老会の開催や友愛訪問事業（給食サービス）、移動支援などを通して、住民福祉の向上にも取り組んでいます。

また、令和６年３月に完成した新たな地域の拠点施設である「唐松地域づくりセンター」を核として、地域民のつながりの維持や活動の充実等を図っています。





新見市「千屋（ちや）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　616 人

○高齢化率　　56.3%

○集 落 数　　48 集落

（R8.1.1）

取組の経過

新見市の北部に位置し、鳥取県と隣接しています。

スキー場が立地する豪雪地帯ですが、農林業や畜産が盛んな地域でもあります。

千屋地区では、以前から５つの区ごとに、地域づくりの活動を行ってきましたが、地域の課題を解決しながら、持続可能な千屋を目指すために、千屋地区全体で小規模多機能自治に取り組む地域運営組織「未来へつなぐ千屋野の里」を令和２年９月に設立しました。

「未来へつなぐ千屋野の里」を中心として、地域住民・各種団体と連携しながら、地域の将来像である『「やっぱり千屋が好き！」人が集い支え合う千屋』を目指して取り組んでいきます。

推進組織

未来へつなぐ千屋野の里

地域の特徴

地域資源を活用した地域づくり

代表的な取組

○景観改善活動

地域の名所の草刈りや年２回の花植え、休耕田を利用したひまわり栽培などを行っています。



○地域活性化活動

帰省者や地区外の人との交流を促進するためにイベントを行い、花火を打ち上げています。

○高齢者支援

11 月から２月にかけて、お菓子やお弁当を高齢者に届ける活動を行っています。また、各地域で行われる敬老会を支援しています。



○地域団体支援

子供神楽や千屋牛追い唄などの地域団体の活動を支援し、発表できるイベントを開催しています。

○特産品開発

休耕田で栽培したひまわりからオイルを絞り商品化しています。

新見市「法曽熊野（ほうそくまの）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　247 人

○高齢化率　　49.7%

○集 落 数　　7 集落

（R8.1.1）

取組の経過

新見市の南部に位置し、主な産業は、農業（ブドウ栽培と肉牛育成及び稲作）です。

本地区では、住民組織である「熊野の将来を考える会」を中心に、「盆踊り・花火大会」や「運動会」など、地域が一体となって様々な取組を行ってきました。

平成 29 年に「助け合いに関するアンケート」、平成 31 年には小学生以上が参加するワークショップを開催し、令和元年 5 月に「熊野地域まちづくり計画」を策定しました。

令和元年 5 月からは、地域運営組織として再スタートし、住民全員で考えた地域の将来像である「みんなで支え合い、生きがいのある熊野！」を目指して活動を推進しています。

推進組織

熊野の将来を考える会

地域の特徴

地域住民の多世代交流と住民による助け合い事業

代表的な取組

法曽熊野地区では、地域住民同士の交流やふるさとを離れた人との交流を図るため、盆踊りや地区運動会などを開催し、多世代が交流する機会を多く設けています。

また、地域の子どもを対象とした事業にも積極的に取り組んでおり、海水浴やキャンプなどの企画も行っています。

平成 30 年からは、「助け合い事業」として、移動支援と生活支援に取り組んでいます。

移動支援では、病院や買い物などへの送迎、生活支援では、主に草刈りなどを行っており、住民同士が支え合う形ができています。





井原市「県主（あがたぬし）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　1,100 人

○高齢化率　43.0%

○集 落 数　36 集落

（R8. 1. 1）





県主未来プロジェクトのイルミネーション



取組の経過

平成 18 年から協働のまちづくりの取組について地域内で話し合い、アンケート調査を行ったうえで、平成 24 年 5 月に本会が設立されました。

本会は、県主地域住民が自ら郷土の将来像を考え、その実現に向けて行動するとともに、協働のまちづくりを推進する中で地域が抱える課題を知恵やエネルギーを結集して克服し、誰もが地域への愛着と誇りを持って、安全で安心して、明るく暮らせる活力ある持続可能な地域づくりと、住民自治の振興に寄与することを目的としています。

推進組織

県の里まちづくり推進協議会

地域の特徴

井原市南部に位置して笠岡市に隣接し、農業を主体とする兼業農家と井原市内や福山市への勤務者が多い地域です。鎌倉時代、承久の変に敗れた後鳥羽上皇の御霊をお慰めするために踊り続けてこられた郷土芸能「鳥羽踊り」の保存活動や江戸時代（嘉永 5 年～）に、困窮する村人を救うために行われた大谷山開墾（162 町歩）など、農業を主産業とした古い歴史を持つ地域です。

代表的な取組

① 地域内の公民館や自治会・防災会・社協とともに年 4 回の広報紙「みんなの県主」を発行しています。②耕作放棄地を活用してさつま芋を栽培し、焼酎「里の夢」を造ったり、さつま芋を原料とした「ワンコのおやつ」を開発しています。また③野菜の苗を栽培して家庭菜園を普及して、少しでも耕作放棄地解消の意識付けになればと活動を行っています。④ふるさとの原風景である「かかし」を題材に「かかしコンテスト」を継続して開催し、交流人口増加に努めており、年々来訪者が増えて知名度向上に繋げています。⑤高齢者等の生活支援として、草刈りや庭木の剪定などを行う「ふるさと便利屋さん事業」も展開しています。この事業は少子高齢化が進む中で地域課題解決の一翼を担っていると自負しています。⑥地域デジタル活用支援事業として、スマートフォン活用講座の開催や高齢者等スマートフォン活用相談室を毎週開催しています。







美作市（とよた）「豊田地区」の取組概要

地域の概要

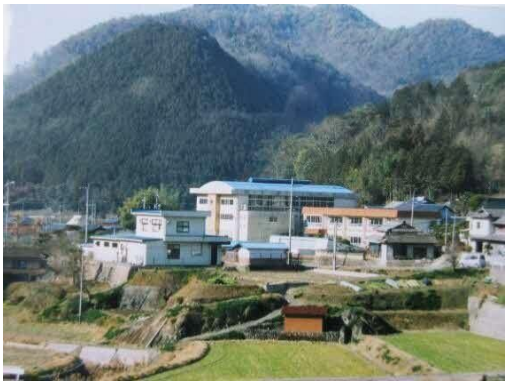
○人　　口　　748 人

○高齢化率　　56.0%

○集 落 数　　26 集落

（R8.1.1）





取組の経過

美作市の南部に位置し地域の大半が山林に囲まれ、自然環境に恵まれた吉野川沿いと、それにそそぐ支流の川沿い及び山間部に集落が形成されています。令和元年 7 月より豊田地区自治振興協議会で「豊田地区を考える勉強会」と名付けて会合を重ね、地区へのアンケート実施、令和 3 年に「おかやま元気！集落」登録後、事業計画を実施していく中、廃校になった小学校跡地の利活用のため、林野高校の企画協力を得て三世代交流会を 2 回実施、地区の現状、資源、課題の把握などその内容など協議し、豊田地区の地域づくりの方向性を出す手掛かりにして、実施に向けて取り組んでいます。

推進組織

豊田地区自治振興協議会

地域の特徴

地域づくりの組織、地域住民が主体となれるような体制の整備など、自立した地域づくりを進め、多くの人の参加を基に推進組織の強化を図っています。

代表的な取組

「豊田地区を考える勉強会」で小学校跡地の利活用のため、コロナ感染防止もしながら、林野高校の企画協力を得て、令和 3 年の 12 月に続いて令和 4 年 11 月に 2 回目の「三世代交流会」を開催しました。さらに毎年「これからの豊田を考える会」を開催しています。また勉強会では他地域の組織づくり視察などで説明を聞き、これからの地区づくりに生かしていく予定です。さらに現在、農地マップ作りを進めています。地区の課題解決と人々の交流会を進めていきます。





久米南町 「上弓削（かみゆげ）地区」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　239 人

○高齢化率　　44.8%

○集 落 数　　7 集落

(R8.1.1)





取組の経過

「元気な地域」とは、地域に会話があり、話が繋がり、人と人とが繋がっていくことだと考え、「元気な上弓削を作ろう」を合言葉に、農地の保全管理と地域の美化を目指し、休耕田に蕎麦を作付け、共同で栽培・収穫を行っています。それにより、共通の話題や問題意識を持つことができ、地域の活性化につながっています。

推進組織

上弓削ふれあいクラブ

地域の特徴

蕎麦栽培を通じ、将来地域を担う子どもに対し、自然の中で遊び、触れ合う楽しさを体験させる活動にも取り組んでいます。まずは、子どもに元気になってもらうことで、大人もその元気や笑顔をもらっています。この、地域と子どもを繋げる活動が持続可能な地域づくりになると考えています。

代表的な取組

○蕎麦の収穫や蕎麦打ち交流事業

地域ぐるみの農地保全にむけ、休耕田に蕎麦を作付け、などで地域や大学生との交流を図っています。

○ふれあい祭りやとんど焼きなどの実施

子どもからお年寄りまで、自治会と連携して、地域ぐるみの活性化イベントを運営しています。

○大学生交流事業（農業体験）





新見市 「土橋（つちはし）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　206 人

○高齢化率　　54.3%

○集 落 数　　9 集落

（R8.1.1）

取組の経過

新見市南部のカルスト台地に位置する土橋地域は、長らく土橋地区振興会にて「ほたる祭り」や「納涼祭」、古紙等リサイクル活動などの事業を中心に、地域に生息するウスイロヒョウモンモドキ（絶滅危惧ⅠA類）の保護活動に取り組んで参りました。令和3年4月に「土橋みらいの会」を設立し、将来に向けて更に元気で健やかに、そして活力のある地域になるよう、「地域の課題をみんなのつながりで解決できる、いつまでも住みやすく愛される地域」を目指す将来像に掲げて活動を推進しています。

推進組織

土橋みらいの会

地域の特徴

地域全戸が参加した各種事業に取り組みながら、蛍やウスイロヒョウモンモドキなど地域シンボルの保護活動も積極的に推進しています。

代表的な取組

土橋交流センターを活動拠点とし、納涼祭、運動会、とんど祭り、友愛・健康推進活動などを展開しております。

ホタルが舞う6月20日前後には、ほたる祭りを開催しており、名物の「牛車」には市内外から多くの方が訪れ、牛車に乗ってほたる鑑賞されています。

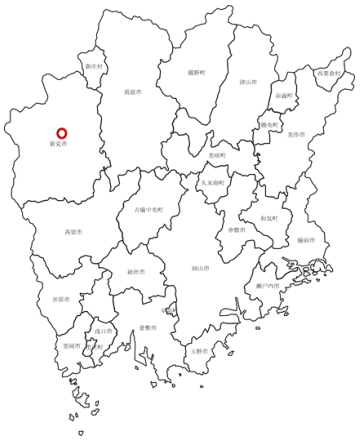
また、絶滅危惧ⅠA類に指定されているウスイロヒョウモンモドキの生息地があり、省庁や学会との勉強会や幼虫の餌となるカノコ草を含めた保護活動を行っております。残念ながら、ここ数年ウスイロヒョウモンモドキの姿は確認できておらず、再び蝶が舞うことを願い、多くの地域住民が保護活動を頑張っています。





新見市 「福本（ふくもと）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　278 人

○高齢化率　　56.1%

○集 落 数　　17 集落

（R8.1.1）

取組の経過

新見市の中心から北に 12ｋｍに位置し、国道 180 号と高梁川の両側に集落が点在した山林と田畑が混在するのどかな自然豊かな地域です。

将来に亘って住みよい地域であり続けるようまちづくりアンケートや「福本地域の未来を語り合う会（ワークショップ）」などを開催し、子供から大人まで、地域のみんなで福本の未来について話し合ってきました。

令和３年４月に、地域内の各種団体全てを組織の中に統合し、地域運営組織「福本地域振興会」として新たにスタートを切りました。みんなが集い、声を掛け合い、支え合える福本地域を目指し、これからも取り組んでいきます。

推進組織

福本地域振興会

地域の特徴

住民福祉の向上と伝統事業の継承

代表的な取組

旧福本小学校区を範囲とするコミュニティとして各種団体活動やボランティア活動が自主的に様々な行事や活動に取り組んでいます。

例年、天恵の名水による天恵豆腐を作り、75 歳以上の一人暮らしの高齢者に安否確認を含め無償で届ける事業や、昔ながらの「じゃっこ（ハゼ科）押し漁」を行い、たくさんの野菜と煮込み、地域外に居住している子供たちや福本出身者を招き、食事会を兼ねた意見交換会を実施しています。

さらには、敬老会や友愛訪問等、住民福祉の向上に取り組んでいます。





新見市 「菅生（すごう）」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　377 人

○高齢化率　　56.4%

○集 落 数　　22 集落

（R8.1.1）





取組の経過

新見市の北東部に位置した人口約 400 人、高齢化率が約 55%の山間地域です。

旧菅生小、中学校区を範囲とするコミュニティとして、古くから各種団体活動、ボランティア活動や集落ごとの行事等、活発に取り組んできましたが少子・高齢化、人口減少などにより、多方面にわたる取組の必要性が増し、また、地域活動人材の不足など、様々な課題を抱えていました。

令和 3 年 6 月、これまで地域の振興と地域づくりを担ってきた二つの団体を統合し、地域における様々な課題を、行政との協働により、住民主体による課題の解決を図る地域の実現を目指し「菅生をよくする会」を設立しました。地域の将来像である「ワンフォーオール、オールフォーワン！～幸せの笑顔が広がる菅生～」を目指して、活動を推進しています。

推進組織

菅生をよくする会

地域の特徴

イベントによる賑わいの創出と、各種団体と協力した活動の実施

代表的な取組

コロナ禍から始めた「菅生花火まつり」が定着しつつある中、敬老会開催を依頼され、諸問題から、花火まつりのイベントを隔年実施として今回は花火の打ち上げのみ実施しました。今後は花火まつりと、敬老会を隔年ごとに実施していく予定です。

交通弱者の高齢者を送迎して、春と秋に集いの場を開催しました。春は桜の下で花見ができました。また、生活支援サービスとして、雪かき、草刈りの支援を継続して実施しています。これらの活動は、新見市社協主催の福祉大会で活動発表を行いました。

また、子供もちつき大会は子供数の減少から、子供会が解散したため、残念ながら廃止となりました。





新見市「草間（くさま）」取組概要

地域の概要

○人　　口　　556 人

○高齢化率　　59.5%

○集 落 数　　18 集落

（R8.1.1）





満開のそばの花

取組の経過

新見市の南部に位置し、石灰岩でできたカルスト台地上に広がる畑作地域です。古くから葉煙草栽培が盛んでしたが、現在は桃やピオーネ、そばや野菜などが栽培されています。

草間地区振興会の活動を引き継ぎながら、急激な人口減少や少子高齢化に対応するため、地域住民のニーズを取り入れ、諸課題の解決に取り組んでいく地域運営組織「草間カルスト里山の会」を令和３年６月に設立しました。

活動のテーマ「**(く)らしやすい里、(さ)さえ合いの里、(ま)ごころ豊かな里、草間**」を掲げて、草間地域の全ての人たちが夢と希望をもって暮らしていくことができる地域づくりを目指して里山の会の役員を中心に様々な活動や事業に取り組んでいます。

推進組織

草間カルスト里山の会

地域の特徴

全国からピオーネ栽培の新規就農者の家族が移住しており、持続可能な草間の地域づくりに大きな希望を与えてくれています。

代表的な取組

草間カルスト里山の会には、総務部、地域・振興部、安全・環境部、健康・福祉部、教育・文化部があり、それぞれの地域の課題に応じた活動を計画して実施しています。



○農産物の６次産業化の取り組み

地域の特産品である桃・ニューピオーネ・新高梨を利用したコンポートを製造・販売し、新たな販路拡大を図っています。



○草間産そばの活用

以前からそばの栽培が盛んであり、その伝統食であるケンチンそばのイベント等での消費拡大、及び生産拡大を図っています。

○高齢者支援事業

運転免許証返納者など移動手段を持たない高齢者に対し「買物ツアー」を年間 10 回実施しました。

新見市「下熊谷（しもぐまたに）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　471 人

○高齢化率　　40.5%

○集 落 数　　15 集落

（R8.1.1）

取組の経過

新見市内中心部より県道 32 号線を東方面に向かい、市街地を抜けたら下熊谷地区で、地区内には体育館・テニスコート・プール・グラウンド等を備えた新見市民運動公園をはじめ、中国自動車道、JR 姫新線、県道 32 号線、熊谷川が通っています。昔からの集落に加え、近年は造成地に建てた新しい住宅地も点在しています。

1982 年に下熊谷地域振興会が発足し、地域の産業・教育・文化の発展を図り、住民の福祉向上に資することを目的とした活動をしてまいりましたが、2021 年 6 月に小規模多機能自治会として組織を再編し「下熊谷はぐくむ会」を設立しました。翌年度には、拠点施設の改修工事を実施し、地域の目指す将来像である「未来をはぐくむ地域のきずな」の実現に向け、愛情をもって地域活動に取り組んでいます。

推進組織

下熊谷はぐくむ会

地域の特徴

木材に関する事業所が多い（県森林連合新見支所・市森林組合・宮永製材所など）。市中心部に近く、高齢化率が低いため、活気があります。

代表的な取組





○1 月‥グラウンドにて、とんど祭を開催し、神事の後で豚汁、飲み物等を振る舞っています。来場者には番号札を渡し、お楽しみ抽選会で景品をプレゼントしています。

○3 月‥お花見会。75 歳以上は、お弁当が無料です。

○4 月‥花桃公園まつりを開催。年々、来場者が増えつつあり、「春」の「花」を満喫して貰っています。

○8 月‥お盆に、納涼祭を開催。お菓子まき・じゃんけん大会・抽選会等があり、帰省者は友達と会えるのを楽しみにしています。

○10 月‥敬老事業、防災訓練、秋まつりでの餅投げを実施しています。

○8 月～1 月に大学生ハンズオン支援事業を実施しました。

○通年‥主に高齢者を対象にするものの、年齢制限を設けずに年間 6 回程度、いきいきサロンを実施しています。又、高齢者等を対象にした友愛訪問事業を、年 3 回実施しています。

奈義町 「広岡（ひろおか）地区」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　318 人

○高齢化率　　45.9%

○集 落 数　　13 集落

（R8.1.1）

取組の経過

広岡地区内には小学校や老人ホームなどの施設があり、地域住民との交流が盛んに行われています。また、中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払制度など活用し、農地保全や景観形成を地域全体で積極的に行なっています。

推進組織

奈義町広岡地区

地域の特徴

広岡地区において、広岡営農組合を中心にほ場整備された水田等で水稲・黒豆・飼料作物・アスパラガス等の栽培が行われている。また、畜産業も盛んとなっています。

代表的な取組

広岡地区では、伝統行事（納涼祭、収穫祭、餅つき）等の交流イベントを開催するほか、小学生の里芋掘り体験の受入、マルシェへの出店など様々な世代間交流を実施しており、移住者向けに地域情報をまとめたチラシの作成や、管理者が不在となっている空き家の維持管理、奈義川沿いの芙蓉の植え付け、営農組合による集落営農の推進などにも取り組んでいます。





○チューリップ畑　お披露目イベント

今年も令和６年４月にはお披露目イベントが行われました。切花、プランターでのチューリップ販売、芝桜の販売も行われ、多くの方にご来場いただきました。

○球根植え付けイベント

令和６年11月には「チューリップの球根植え付けイベント」が行われました。老若男女問わず多くの方にご参加いただき、交流を楽しみながら２万球以上の球根を植え付けました。

新見市 「豊永（とよなが）」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　574 人

○高齢化率　　62.1%

○集 落 数　　33 集落

（R8.1.1）





取組の経過

新見市の南部に位置し、標高 350～500M の地帯に肥沃で広大な畑地が広がり、主な産業は農業（ぶどう）です。また、観光スポットであり県の天然記念物に指定されている全長約 450 メートルの鍾乳洞（満奇洞）があります。

これまでも地域づくりを担っていた団体が、高齢化が進む暮らしや集落活動の課題に取り組むため、地域の全戸が構成員となり皆が自分のこととして考え活動する地域運営組織に令和 4 年 5 月に移行しました。「豊かに永遠に　豊永の仲間と共に」をテーマに掲げ、次世代を担うこどもたちに安心してタスキを引き継いでいけるよう、活動を重ねていきます。

推進組織

豊永支え合いネット

地域の特徴

住民同士の支え合いと地域資源の活用

代表的な取組

平成 29 年に地域の高齢者を対象に「買い物ツアー」をスタートさせました。毎月 2 回、買い物支援を希望する方を、貸出車両を使用して市内外の商業施設まで送迎しています。車内では住民有志の運転手等と参加者との会話も弾み、地域の交流の機会になっています。

また、「歴史探訪」として地元の旧跡を知り愛着を深めようと、子どもから大人までを対象に、地域の石仏や社寺について見学や体験、講義等の学ぶ場を設けています。歴史の新たな発見を地域の魅力アップにつなげるよう取り組んでいます。

そして、４月に「カタクリウォーク」、９月にピオーネ販売を中心とした「特産品まつり」を開催して他地域との交流を進めるとともに地域の魅力を発信しています。

カタクリウォーク



特産品まつり



高梁市（うかんちょう）「有漢町」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　1,797 人

○高齢化率　　47.2%

○集 落 数　　33 集落

（R8.1.1）

取組の経過

高梁市有漢町では、平成 20 年 8 月に地域住民が主体的にまちの活性化に取り組んで行けるよう「ＮＰＯ法人夢風車うかん」を設立しました。

当初は、うかん常山公園を中心としたイベント活動が主体でありましたが、平成 27 年度からは有漢地域まちづくり協議会から移住定住対策を受託し、市とも連携し、空き家バンク登録、訪問案内等を行っています。

平成 29 年度には「風を集める会」を設立し、移住者支援と地域住民との交流を図っています。

令和 3 年度から、移住希望者が地域の生活を実際に体験できる「風をおこすまち有漢お試し暮らし住宅」の運営も行っています。

推進組織

ＮＰＯ法人夢風車うかん

地域の特徴

現在まで取り組んできた活動内容の検証を行い、人口減少対策、地域の活性化等について模索して行きます。

代表的な取組



○ウカン・ザ・フェスティバル

5 月には「紙ひこうき大会」、2 月には「バレンタイン・キャンドルナイト」などの交流イベントを開催しています。

○移住定住対策事業

町内の空き家、空き農地の情報を収集し、空き家バンク登録、訪問案内等を行っています。



○お試し住宅事業

元市営住宅 2 戸を「風をおこすまち有漢お試し暮らし住宅」として運営しており、有漢への移住希望者の方へ貸出しを行っています。

新見市「哲西町大竹（てっせいちょうおおたけ）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　218 人

○高齢化率　　45.4%

○集 落 数　　4 集落

（R8.1.1）

取組の経過

新見市の南西部に位置する哲西町大竹地域は、広島県と隣接しており、地区内を国道182 号線が横断しています。主な産業は農業（水稲）で、若山牧水歌碑が立つ牧水二本松公園が整備されています。

若い世代を中心にした「大竹会」がこれまでも地域振興を担っていましたが、福祉部会の機能を加え、地域課題の解決に取り組む地域運営組織へ令和 4 年 8 月に移行しました。これまでと同様に「気軽に集い笑顔と活気あふれる地域」を目指して、みんなで協力して取り組んでいきます。

推進組織

大竹会

地域の特徴

若い世代を中心とした地域づくり

代表的な取組

例年、納涼大会や子ども神輿、とんど焼きを実施し、地域の活性化を図っています。

地域運営組織設立後は、地域振興事業として、敬老事業やサンタ訪問事業、友愛訪問、大竹史跡めぐり健康ウォーキング、地域安全・環境事業として防災訓練、市道・カーブミラー危険箇所調査、大竹地域クリーン作戦等を行い、地域課題の解決や特色を活かした魅力ある地域づくりに取り組んでいます。

また、5 月には哲西の太鼓田植「よいとこまつり」への出店、10 月には収穫祭や餅投げを行い、地域の特産品のＰＲや地域間・世代間の交流事業を行いました。







津山市 「大井東（おおいひがし）地域」の取組概要

地域の概要

○人　　口　　833 人

○高齢化率　　50.3%

○集 落 数　　3 集落

（R8.1.1）





取組の経過

津山市の南西部に位置し、真庭市と鏡野町に接しており、久米川の支流となる宮部川が東西に流れ、清潔な川からは毎年多くのホタルが観察される、自然と共存した地域です。

大井東地域はこれまで、ホタルを観察するウォーキングや、生活支援の「大井東村おたすけ隊」の結成、高齢者や子どもたちの居場所づくりや体験事業、防災訓練等、多岐に渡る地域活動を行ってきました。

高齢化率 50%を超え、地域住民のつながりの希薄化、通院や買い物等に関する移動問題、災害時の避難等さまざまな課題を抱える住民が増加しつつあります。

大井東地域全体で課題について考え、取組を進めるため、令和５年度から「大井東地区地域づくり協議会」を設立し、福祉・防災・まちづくり等の各分野の関係団体が協力し、課題解決に向けた取組を話し合っています。

推進組織

大井東地区地域づくり協議会

地域の特徴

住み慣れた場所でいきいきと暮らせる地域



代表的な取組

○ホタルの魅力発信

ウォーキングを実施し、子どもから大人まで様々な世代がホタル観察を楽しみ、ホタルについて学びました。

○子どもたちの居場所づくり

「アラカルト」と名付け、毎月ふれあい学習館を中心に花見やキャンプなど普段家ではできない体験を子どもたちと行っています。



○高齢者の生活支援

「大井東村おたすけ隊」を設立し、買い物や通院のための移動支援や草刈り等の支援体制づくりを進めています。

○地域住民同士の交流

大井東地域全体での納涼祭を実施し、地域内の住民が多く参加し、伝統の音頭を踊り交流を深めました。

奈義町 「滝本（たきもと）地区」の取組概要

地域の概要

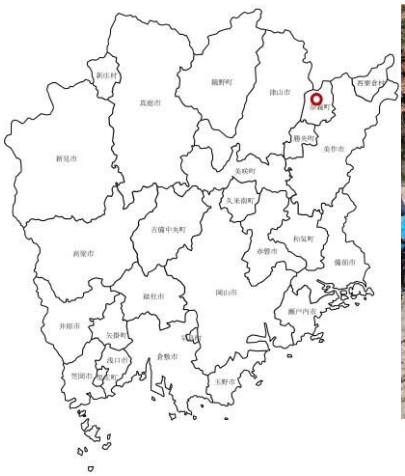
○人　　口　　820 人※

○高齢化率　　26.0%

○集 落 数　　16 集落

（R8.1.1）

※自衛隊 290 人含む





取組の経過

滝本地区は奈義町の中心部よりやや西側に位置し、中山間地域等直接制度や多面的機能支払制度を活用した滝本地区活動組織と滝本農業振興会が主体となり、農業振興に努力している。また、県下で初めて令和５年に設立した「草刈会」は、地域全体の農地保全や景観維持に積極的に取り組んでいる。

推進組織

奈義町滝本地区

地域の特徴

陸上自衛隊日本原駐屯地の地元地区であり、隊員やその家族と共に地区の事業やイベントに多く参加し、友好な関係を築けている。

代表的な取組

滝本地区内中央に流れる滝川は、県指定天然記念物である源氏ホタルの生息地であり、広く町内外への PR と環境維持を目指して地元有志で開始した滝川ホタル祭りも 25 年以上経過し、県内雑誌等にも紹介されるなど県下にも広く周知されるまでになっていた。ところがコロナ禍による一時中断や実行役員の高齢化から今後の継続維持が課題となってきており、地区活動としての位置付けが重要となっている。





新見市 「石蟹（いしが）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　504 人

○高齢化率　　47.2%

○集 落 数　　10 集落

（R8.1.1）

取組の経過

新見市の中心部の南側に位置し、国道１８０号線を挟み片方の平地にはＪＲ伯備線の石蟹駅や新見市防災公園が設置されており、もう片方の傾斜地に集落が形成されています。

約４０年前から石蟹地域振興会が地域の発展に寄与してきましたが、福祉面や生活環境面に感じている不安等を解決し、更なる地域の発展のため、令和６年６月に地域運営組織「石蟹住みよいまちづくりの会」に移行しました。

４部会約６０人の部会員と共に「つなぐ手と手で未来が変わる　～みんな笑顔で支え合う地域～」をキャッチフレーズに、地域の更なる活性化を果たすため、様々な事柄に取り組んでいきます。

推進組織

石蟹住みよいまちづくりの会

地域の特徴

地域運営組織の一部でもある自主防災会の活動が活発です。

代表的な取組

○地域振興部会

40 年以上続いている石蟹夏祭りや打ち上げ花火大会、地区民運動会など持続可能な地域振興を目指しています。また、休耕田を利用したフラワーガーデン整備など、新たな地域の魅力作りに取り組みます。

○健康福祉部会

敬老会やグラウンドゴルフ大会、移動販売車の情報提供、寄せ植えを楽しむ会など地域で支え合い、安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいます。

○安全防災部会

石蟹地域の自主防災会を運営し、防災訓練や消火栓点検整備、資機材の整備などを実施しています。また、子どもたちのために通学路の点検整備も行っています。

○教育文化部会

秋祭りの支援やとんど祭りの支援、地域にあった盆踊りの掘り起こしなど文化的な面に力を入れて活動しています。また、子どもたちへの学びの支援や昔あそび交流など、教育的活動を通した多世代のふれあいの場づくりにも取り組んでいます。



石蟹夏祭り



敬老会

新見市 「刑部（おさかべ）」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　1,393人

○高齢化率　　48.6%

○集 落 数　　32集落

（R8.1.1）

取組の経過

新見市の北東部に位置し、旧大佐町の中心地であり、主な産業は稲作を中心とした農業です。小坂部川沿いに県道３２号線、ＪＲ姫新線が走っており、新見市役所大佐支局、大佐公民館、刑部駅が設置されています。

刑部地域振興協議会は刑部小学校区を中心としたコミュニティ組織として、地域福祉事業、地域振興事業等に取り組んできましたが、少子高齢化やコロナ禍により、地域のつながりが希薄になる中、高齢者の生活支援を含む多方面での課題解決に取り組むため、住民一人ひとりが地域を見つめなおし、行動していくために令和４年４月に地域運営組織に移行しました。

「手と手をとりあい笑顔で集える刑部地域」の実現を目指し、取り組んでいます。

推進組織

刑部地域振興協議会

地域の特徴

豊かな自然を生かし人と人とのつながりを大切にした地域づくり

代表的な取組



○健康福祉活動

10月第1日曜日に、敬老会・ふれあい交流会を実施します。式典の後、刑部小学校3年生と5年生、及び他団体による出し物などを見ながら交流を深めます。

○生活安全活動

地域から食料品店がなくなり買い物ができなくなった高齢者のために、年間3回の外出支援活動を実施しています。また、視察研修の際も店舗をコースに入れ、食料品などの購入に便宜を図っています。



○教育文化活動

地域の歴史や自然を学ぶことや健康づくりを兼ねた「地域を知るウォーキング」を実施しています。

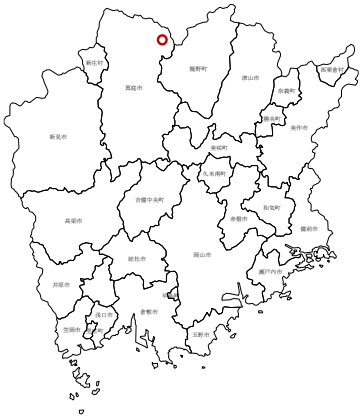
地域の偉人の話や植物等について学ぶと共に世代を超えた人々の交流の機会となっています。

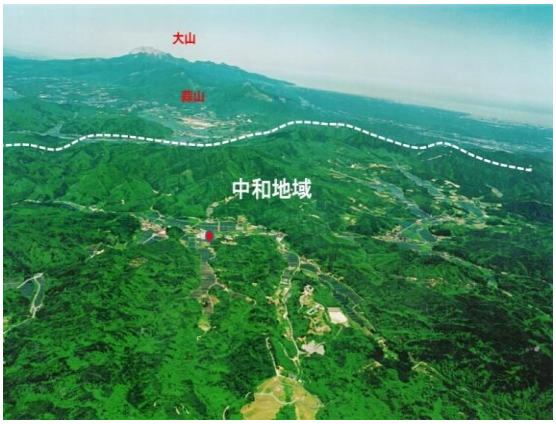
○生業事業部活動

令和８年１月から組織内に生業事業部を設け、地区内の大きな課題である買物環境を改善するための店舗と、その経営が持続できるように来客者の集客力や地域住民の利便性を考えた交流施設の設置について検討を始めました。

真庭市「中和（ちゅうか）地域」の取組概要

地域の概要





○人　　口　　521 人

○高齢化率　　46.1％

○集 落 数　　13 集落

（R8.1.1）

取組の経過

中和地区は真庭市の北部（旧中和村）に位置し、蒜山高原の一帯に位置する標高の高い地形を基盤とし、起状に富んだ高原・里山地帯が広がっています。

中和地域づくり委員会を設立し、地域が持続可能であり続けるために地域の活性化に取り組んでいます。

推進組織

中和地域づくり委員会

地域の特徴

中和地域づくり委員会では地域づくり事業の活性化や環境保全活動、交流イベントの開催、移住促進の取り組みなどを行っています。稲作や農林業、豊かな自然を生かした自然体験ができます。

代表的な取組

○環境美化活動

地区内全域で草刈りやごみ拾いを行い里山の景観を維持しています。



○中和紅葉祭

中和地域づくり委員会が中心となり、開催しています。農産物や郷土料理の出店、文化活動の展示や地元の子どもたちによるステージ発表などが行われます。

○デマンド交通

真庭市からの市の委託を受け、地域で運営・運行する公共交通システムを開始。地域の高齢者を中心に交通弱者の利便性が向上しました。



○中和定住案内事業

空き家活用パンフレットの作成や空き家情報を収集し移住相談希望者と家主とのマッチング活動を行い、空き家対策を行っています。

高梁市「巨瀬町」分は、
現在作成中